



2027年度 入学者選抜要項

大 学 院

健康科学研究科

鍼灸学専攻(修士課程)
柔道整復学専攻(修士課程)
健康栄養学専攻(修士課程)
言語聴覚学専攻(修士課程)
作業療法学専攻(修士課程)
理学療法学専攻(修士課程)
救急医療学専攻(修士課程)

臨床心理学専攻(博士課程)
健康科学専攻(博士課程)

鍼灸学分野
柔道整復学分野
健康栄養学分野
言語聴覚学分野
作業療法学分野
理学療法学分野
救急医療学分野

はじめに P.1
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー) P.2

入学者選抜概要 P.4

健康科学研究科
修士課程 P.4
博士課程 P.6

出願手続 P.8

出願から入学手続まで P.8
出願に必要な書類 P.9
出願手続 P.10
受験料支払い P.13
出願書類提出方法 P.13
受験上の注意 P.14

合格発表・入学手続 P.15

合格発表 P.15
入学手続 P.16
納付金 P.16

試験場の案内 P.18

試験場案内図 P.18

研究指導内容 P.19

修士課程 P.19
博士課程 P.37

Q&A P.58

Q&A P.58

はじめに

●受験生の皆様へ

この入学者選抜要項には、出願手続から入学手続完了までのすべてが記載されています。まず一通り熟読し、そのうえで必要なページを読み返し、誤りのないよう出願を行ってください。

また、**出願後、本人の入力ミス等による出願内容の変更は、いかなる場合もできませんので注意してください。**

●担当希望教員との事前面談について

本学の研究指導内容（P.19～P.57『教育研究および担当教員』）を確認のうえ、出願希望の方は、出願前に必ず入試課へご連絡ください。その後、担当希望教員と面談のうえ、研究内容の方向性を確認します。

●受験上の合理的配慮について

本学では、障がいのある受験生が、他の受験生と同様に能力を発揮できるよう、受験上の合理的配慮に関する申請を受け付けています。出願に先立ち、必ず入試課へご相談ください。

なお、以下のような配慮については、個別の状況に応じて検討いたします。

- ・別室での受験
- ・座席の配慮
- ・補助具（ルーペ、補聴器等）の使用許可
- ・試験監督者による口頭説明の補足（聴覚・視覚障害に応じて）

受験上の配慮を希望される場合は、診断書（原本）や配慮希望内容を記載した書面（メモ書き等）をご用意のうえ、出願開始の2週間前までに入試課へお問い合わせください。

●留学生の皆様へ

本学の授業等は原則として日本語で行われるため、「日本語教育の参照枠」におけるB2相当以上（日本語能力試験〈JLPT〉N2総合得点112点以上、またはN1総合得点100点以上）の日本語能力が必要です。

出願にあたっては、上記の日本語能力を証明する書類の提出が必要です。詳細はP.9をご確認ください。

お問い合わせ先 帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRiセントラル 入試課 TEL：03-5843-3200

「個人情報の取り扱いについて」

出願においてお知らせいただいた個人情報（氏名、住所等）は本学におきまして入学案内、入学試験に関する業務を行うために利用します。

この業務の一部は、本学より当該業務の一部を委託した業者（以下、「受託業者」という）にて行います。業務委託にあたり、個人情報の保護に関する契約を締結した受託業者に、お知らせいただいた個人情報の全部または一部を提供することがあります。

「安全保障輸出管理について」

帝京平成大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「帝京平成大学安全保障輸出管理規程」を定め、安全保障輸出管理を実施しています。そのため、入学時及び入学後の教育・研究活動等に際して、必要に応じて確認を行う場合があります。なお、外国籍の方または在留資格が「留学」である方については、安全保障輸出管理上の確認のため、所定の誓約書を提出していただきます。確認及び誓約書の内容等に基づき、法令等の規制に該当すると判断された場合は、希望する研究活動や教育内容の一部に制限が生じることがありますので、あらかじめご了承ください。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

【健康科学研究科】

健康科学研究科は修士課程7専攻と博士課程2専攻で構成されている。教育目的は、健康科学及び臨床心理学の分野における高度専門職業人や各専門分野の教育・指導者、および研究者の養成である。この教育目的を達成するために、以下の入学者を求める。

- ①保健、医療、福祉、介護の各分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- ②保健、医療、福祉、介護の各分野、および関連する学際的分野の諸課題に興味を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- ③各専攻や分野が求めている入学者要件を満たしている。

鍼灸学専攻（修士課程）

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）は、鍼灸医学の指導者として、この分野の学問体系を構築する高度専門職業人、教育・研究者を養成する。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ①鍼灸医学の分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- ②研究に必要な基礎的能力を備えていて、諸課題に立ち向かう研究意欲を抱いている。
- ③主体的に研究を進める行動力と同時に、他者との協調性や指導を受け入れる柔軟性を有している。
- ④研究を行う過程で困難に打ち勝つ姿勢や、目的を達成しようとする強い意志を有している。

柔道整復学専攻（修士課程）

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）では、柔道整復学分野の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。建学の精神である「実学」「実践力」「創造力」そして「人間性」を基本とし、健康科学の研究と教育に高い関心を持つ、以下の入学者を求める。

- ①柔道整復という伝統的臨床技術を体系立った応用学問として確立しようとしている。
- ②経験に基づく施術方法を科学的に検証して、得られた知見を臨床現場の活動にフィードバックしたいと希望している。
- ③柔道整復の治療手技に止まらず健康科学の広い視野を持って学び、医療・保健分野の専門職や教育・指導者、また研究者として社会に貢献することを目標としている。

健康栄養学専攻（修士課程）

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）は、“食・栄養と健康”に関する高度人材養成、教育・指導者・研究者養成を目指し人々の健康維持増進の実現に貢献することを目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ①食・栄養・健康に関心があり、より専門的な能力を身につけようとする意欲を有している。
- ②食・栄養に関して研究意欲が高く新規性・独創性のある研究課題に取り組もうとする能力を有している。
- ③食・栄養・健康の活動を通して、積極的に社会に寄与、貢献したいと希望している。
- ④他者へのいたわり・思いやりをもち、協調性を有している。

言語聴覚学専攻（修士課程）

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）は、言語聴覚学領域における指導的な役割を担う高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ①言語聴覚障害分野における課題を発見し、課題解決に取り組む意欲や態度、研究に必要な基礎的能力を有している。
- ②言語聴覚学領域における課題や問題を深く研究する明確な動機と研究意欲を持ち、積極的に研究を遂行できる。
- ③臨床、教育、研究に必要な基本的協調性と社会性を持ち、言語聴覚士の資格を活かし、わが国と世界の持続・発展に尽くし、貢献する意欲を有している。

作業療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）では、作業療法分野における高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求める。

- ①作業療法領域における教育と研究に対する意欲と情熱を有している。
- ②研究に必要な基礎的能力を有している。学部において卒業研究を行っていることが望ましい。
- ③主体的に研究を進める意欲と同時に、他者との協調性および指導を受け入れる姿勢や態度を有している。
- ④研究を行う過程で困難に遭遇してもめげない強い意志を有している。

理学療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）は、理学療法学領域またはスポーツ医科学領域における専門技術を高めるとともに、様々な分野との連携を通して、学術的な発展を目指す高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するため、以下の入学者を求める。

- ①明確な研究意識を持ち、意欲的に情報収集して問題解決にあたることができる。
- ②リハビリテーション医療チームまたはスポーツ医科学領域の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の一員として、協調性を有している。
- ③コミュニケーション能力と、国際的な視点に立って、社会に貢献する意欲を有している。

救急医療学専攻（修士課程）

健康科学研究科 救急医療学専攻（修士課程）は、救急医療学分野における高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求める。

- ①救急医療学領域における研究と教育に対する意欲と情熱を有している。
- ②自ら学ぶことができ、物事を論理的に考えることができる能力を有している。
- ③倫理的な問題に真摯に向き合い、その解決に向けて取り組む意欲を有している。
- ④社会的関心を持ち、国際的な視野に立つものごとを捉え、考える力を有している。

臨床心理学専攻（博士課程）

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）の教育目的は、本学の建学の精神「実学の精神」に則り、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する研究課題について、高い倫理観と旺盛な探求心をもち、科学的で実証的な方法論を身につけ、創造的に問題解明に取り組んで研究成果をあげることである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ①人と心に対する深い関心と理解力を持ち、臨床心理学の実践方法を改善するための問題意識を有している。
- ②関連領域の研究成果の学修につとめ、自らの問題意識をその中で発展させていくことができる。
- ③臨床心理領域における問題解決のための科学的方法論に関心をもち、それを体得していく意欲と能力を有している。

健康科学専攻（博士課程）

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）の教育目的は、健康に関わる諸問題に対し複眼的な視点から研究を行うことができる各専門分野の高度専門職業人、教育・指導者、および研究者を養成することである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ①本専攻の研究分野に含まれている保健、医療、福祉、介護の各専門領域、および関連する学際的分野の諸課題に関心を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- ②修士課程修了レベルの学力や研究経験があり、研究に必要な基礎的・応用的能力を有し、倫理的側面を含む研究関連の基本的事項を理解している。

課程修了の認定および学位

課程	在学期間	修得単位および条件	学位
修士	修士課程 2 年以上 4 年以下	・ 30単位以上 ・ 学位論文の審査および試験に合格した者	修士（健康科学）
博士	博士課程 3 年以上 6 年以下	・ 16単位以上 ・ 学位論文の審査および試験に合格した者	博士（健康科学）

※修士課程・博士課程において、社会人入学者で、長期履修学生制度を希望の場合はP.16を参照

健康科学研究科 入学者選抜概要

修士課程 健康科学研究科

修学キャンパス 池袋

1. 募集人員（社会人枠含む）

鍼灸学専攻	3名
柔道整復学専攻	3名
健康栄養学専攻	3名
言語聴覚学専攻	3名
作業療法学専攻	3名
理学療法学専攻	3名
救急医療学専攻	3名

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者（2027年3月卒業見込みの者を含む）。
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者または2027年3月までに修了見込みの者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者または2027年3月までに修了見込みの者。
- (5) 我が国において、外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年3月修了見込みの者。
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準に該当する者に限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または2027年3月末までに修了見込みの者。
- (7) 文部科学大臣の指定した者。
- (8) 2027年4月1日現在で満22歳以上であり、本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。
- (9) 社会人枠は、上記(1)～(8)のいずれかに該当し、病院・施設等の正規職員で、所属長から推薦を受けた者とする。
 - ※(注) 1 「社会人枠」とは、病院・施設等に勤務している者を所属長からの推薦に基づいて選抜する制度である。推薦を行う病院・施設等は、在職のままの修学について応諾することを前提とする。
 - ※(注) 2 出願資格(8)で受験を希望する者は下記「入学資格審査」を確認すること。

入学資格審査

専攻	申請条件
鍼灸学専攻	はり師並びにきゅう師の国家資格を有する者
柔道整復学専攻	柔道整復師の国家資格を有する者
健康栄養学専攻	栄養士の資格を有する者
言語聴覚学専攻	言語聴覚士の国家資格を有する者
作業療法学専攻	作業療法士の国家資格を有する者
理学療法学専攻	理学療法士の国家資格を有する者 または日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者 または健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士の資格を有する者

- ※(注) 3 出願資格(8)により受験を希望する者は、出願資格の確認を行いますので、出願に先立ち、出願開始日の2週間前までに入試課へご連絡ください。

3. 試験日・試験場

試験区分	出願期間(出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験場
I 期	2026年 9月10日(木)～10月 2日(金)	10月25日(日)	10月30日(金)	11月13日(金)	帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRiセントラル
II 期	2027年 2月 1日(月)～ 2月25日(木)	3月14日(日)	3月16日(火)	3月23日(火)	

※各試験区分において、出願期間最終日の出願登録は16:00までとなりますので、ご注意ください。

4. 選考方法 筆記試験・面接・書類審査などで総合的に判定します。

(1) 筆記試験

①小論文

②英語：辞書は大学より貸与

(2) 面接

希望する研究分野別に研究計画等について行います。

5. 時間割 9:00までに試験場に集合してください。

面接の終了時間は順番によって異なります。

受験上の注意	小論文	英語	昼食	面接
9:15～9:30	9:30～10:30	10:50～11:50	11:50～12:55	13:00～

※最終入室時間は試験開始20分後まで(9:50)となります。

※各自で昼食を用意してください。学生食堂は営業していません。

健康科学研究科 入学者選抜概要

博士課程 健康科学研究科

修学キャンパス 池袋

1. 募集人員 (社会人枠含む)

臨床心理学専攻

2名

健康科学専攻

鍼灸学分野

柔道整復学分野

健康栄養学分野

言語聴覚学分野

作業療法学分野

理学療法学分野

救急医療学分野

全分野で5名

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位や専門職学位を有する者 (2027年3月までに取得見込みの者を含む)。
- (2) 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位・専門職学位に相当する学位を授与された者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定された外国の学校の課程 (文部科学大臣指定外国大学 (大学院相当) 日本校) を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (6) 外国の学校、(4)に規定する教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者または2027年3月までに授与される見込みの者。
- (7) 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者。
- (8) 文部科学大臣の指定した者。
- (9) 2027年4月1日現在で満24歳以上であり、本大学院において個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。
- (10) 社会人枠は、上記(1)~(9)のいずれかに該当し、病院・施設等の正規職員で、所属長から推薦を受けた者とする。

※ (注) 1 出願資格(9)により受験を希望する者は、出願資格の確認を行いますので、出願に先立ち、出願開始日の2週間前までに入試課へご連絡ください。

※ (注) 2 「社会人枠」とは、病院・施設等に勤務している者を所属長からの推薦に基づいて選抜する制度である。推薦を行う病院・施設等は、在職のままの修学について応諾することを前提とする。

3. 試験日・試験場

試験区分	出願期間(出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験場
I 期	2026年9月10日(木)~10月2日(金)	10月25日(日)	10月30日(金)	11月13日(金)	帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRiセントラル
II 期	2027年2月1日(日)~2月25日(木)	3月14日(日)	3月16日(火)	3月23日(火)	

※各試験区分において、出願期間最終日の出願登録は16:00までとなりますので、ご注意ください。

4. 選考方法 筆記試験・面接・書類審査などで総合的に判定します。

(1) **筆記試験**

① **小論文**

② **英語**：辞書は大学より貸与

(2) **面接**

希望する研究分野別に専門分野の学力・修士論文・研究計画等について行います。

5. 時間割 9:00までに試験場に集合してください。

面接の終了時間は順番によって異なります。

受験上の注意	小論文	英語	昼食	面接
9:15～9:30	9:30～10:30	10:50～11:50	11:50～12:55	13:00～

※最終入室時間は試験開始20分後まで（9:50）となります。

※各自で昼食を用意してください。学生食堂は営業していません。

■ 出願から入学手続まで

大学院担当教員 への連絡

- 教育研究および担当教員(P.19～P.57)のページを参照し、本学の研究指導内容を確認してください。
- 出願する前に担当希望教員とご相談ください。なお、担当希望教員の連絡先は入試課(TEL.03-5843-3200)にお問い合わせください。

1

事前準備

(P.8～10参照)

- 担当希望教員との事前面談(必須)
- 出願に必要な書類の準備
- メールアドレスの準備
- 顔写真データの準備

2

インターネット出願登録

(P.10～12参照)

- 個人情報・顔写真データ・出願情報の登録
- インターネット出願の流れ・受験料支払いの利用手順

3

受験料支払い

(P.12～13参照)

- インターネット出願の流れ・受験料支払いの利用手順
- 受験料
- 受験料支払い方法

4

出願書類提出方法

(P.13参照)

- 郵送による提出
- 直接来学による提出

5

受験票の確認

(P.13参照)

- 受験票の印刷

6

受験上の注意

(P.14参照)

- 試験場
- 集合時間
- 持参品
- 服装
- 試験中の注意

7

合格発表

(P.15参照)

- インターネットによる合否照会

8

入学手続

(P.16～17参照)

- 入学手続方法
- 納付金
- 長期履修学生制度
- 入学許可の取消しについて
- 入学辞退手続

入学者
選抜
概要

出
願
手
続

合格発表・入学手続

試験場の案内

研究指導内容

Q

&

A

出願に必要な書類

- ・ 本学HPより取得が必要な書類は、必要に応じて取得してください。
- ・ 提出漏れ防止のため、「チェックリスト」欄を活用しながら書類を準備してください。
- ・ 間違いや不備のないよう、よく読み、提出する前に再度確認してください。
- ・ 提出書類をまとめる必要がある場合は、ホチキス留めはせず、クリップ等を使用してください。

《全員必須》

書類の種類		注意点	本学HPより取得が必要	チェックリスト
①	志願票	インターネット出願画面から出力・印刷の上、必ず封入してください。	△	☐
②	志願者履歴書	本学ホームページより取得し、必要事項を入力の上、印刷して提出してください。 ※手書きでの作成は不可とします。	○	☐
③	成績証明書	最終学歴校の学校長等が作成し、 厳封したもの 。	△	☐
④	研究希望書(様式任意)	大学院での研究計画等について入力し提出してください。	△	☐

《各専攻修士課程志願者のみ必須》

書類の種類		注意点	本学HPより取得が必要	チェックリスト
⑤	卒業(見込)証明書	出身大学等で作成し、 厳封したもの 。	△	☐

《各専攻博士課程志願者のみ必須》

書類の種類		注意点	本学HPより取得が必要	チェックリスト
⑥	修士課程修了(見込)証明書	出身大学等で作成し、 厳封したもの 。	△	☐
⑦	修士論文・修士研究概要(様式任意)、研究業績一覧	修士課程修了者は修士論文の内容を、修了見込者は修士研究の内容を2,000字(英語の場合は500words)程度に要約した概要を提出してください。他に、公表論文・研究業績がある場合は、その写しおよび研究業績一覧(本学ホームページより取得し、入力)を添付してください。	○	☐

《該当者のみ》

書類の種類		注意点	本学HPより取得が必要	チェックリスト
⑧	学位授与証明書(修士課程)	※出願資格(2)に該当する方のみ 大学改革支援・学位授与機構が証明したものを提出すること(授与見込の場合は、学位授与申請受理証明書を提出すること)。	△	☐
⑨	取得資格免許証のコピー	医療系の国家資格を取得されている方は提出してください。	△	☐
⑩	入学資格審査申請書	※修士課程出願資格(8)・博士課程出願資格(9)に該当する方のみ(P.4・P.6参照) 本学ホームページより取得し、必要事項を入力の上、印刷して提出してください。	○	☐
⑪	受験承諾書	出願時に在職中の方で、在職のまま入学を予定している場合には、勤務先所属長の「受験承諾書」を提出してください。 (所定用紙を本学ホームページからダウンロード・印刷) 合格後、退職する予定の方は、志願者履歴書の特記事項にその旨を記載してください。	○	☐
⑫	戸籍抄本	婚姻等により、出願書類に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、提出してください。	△	☐
⑬	パスポートおよび在留カードのカラーコピー	※日本国内に居住する外国籍の方のみ 以下をカラーコピーし、提出してください。 ・パスポートの顔写真ページ(氏名、生年月日、パスポート番号等が記載されているページ) ・在留カードの両面(在留期間等および現住所が最新のものの)	△	☐
⑭	留学生個人票	※在留資格「留学」の方のみ 本学ホームページより取得し、必要事項を入力の上、印刷して提出してください。	○	☐
⑮	日本語能力試験結果	※在留資格「留学」の方のみ 日本語能力試験(N2 112点以上 または N1 100点以上)合格を証明する合否結果通知書または証明書のコピーを提出してください。	△	☐
⑯	経費支弁書(本学所定用紙)	※在留資格「留学」の方のみ 本学ホームページより取得し、黒のボールペンで必要事項を記入してください。 必ず記入例を参照し、記入ミスのないようにしてください。	○	☐
⑰	経費支弁能力証明関連書類	※在留資格「留学」の方のみ 経費支弁能力を証明する書類を提出してください。(本人または経費支弁者名義の残高証明書/年収証明書 等)	△	☐
⑱	外国語で作成されている書類の日本語訳	外国語で作成されている書類には、原本に加え、必ず公的機関が発行した公印付きの日本語訳を提出してください。	△	☐

※外国籍の方：外国籍を有する者

※在留資格「留学」の方：出願時点で在留資格「留学」を有する者、または2027年3月31日までに取得見込みの者

出願手続

1. 事前準備

● メールアドレスの準備

インターネット出願時にメールアドレスを登録していただきます。

登録したメールアドレスはマイページのログインIDとして使用し、また、出願完了や受験料納金完了をお知らせするメールを送りますので、普段から使用するメールアドレスを準備してください。

● 顔写真データの準備

顔写真は入学者選抜試験当日の本人確認用および入学後の学生証用として使用します。

一度登録された写真は変更できませんので、下記の「○良い例」を参考に、不備のないよう準備してください。

写真データのサイズは、100KB以上5MB以下となります。

※志願票に顔写真は表示されません。また、印刷した志願票に顔写真を貼付する必要はありません。



○良い例



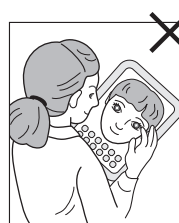
×写りが不鮮明



×どちらかの目が隠れている



×顔の写りが大きすぎる



×アプリ等で顔を加工している

2. インターネット出願登録

● 個人情報・顔写真データ・出願情報の登録

以下のURLにアクセスし、インターネット出願システムより必要な情報を入力し、出願手続きを行ってください。

出願時の登録・入力ミスによる登録内容の変更は受け付けられませんので、ご注意ください。

※各試験区分において、出願期間最終日の出願登録は16:00までとなりますので、ご注意ください。

<https://www.guide.52school.com/guidance/net-thu/>

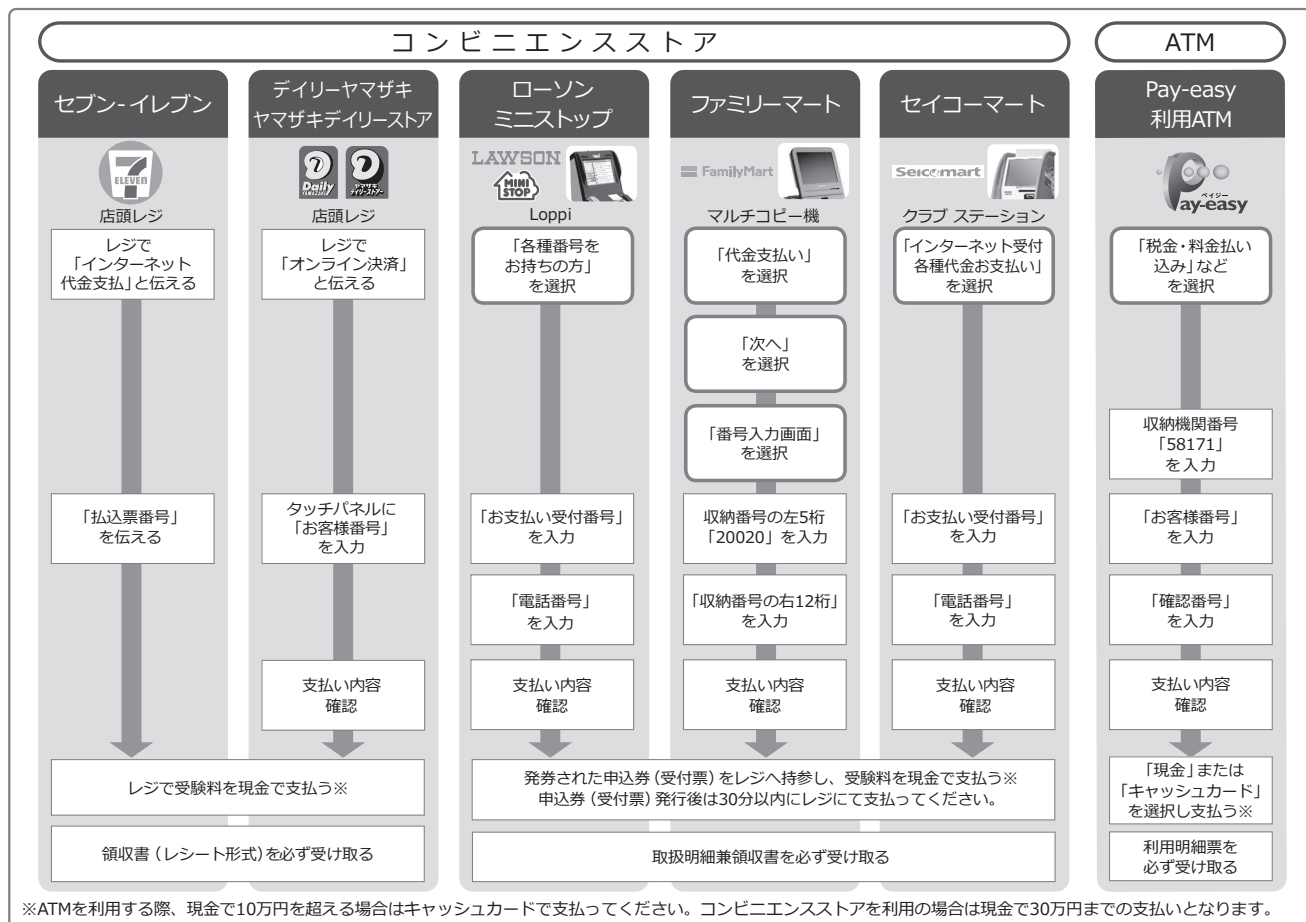
11 帝京平成大学大学院 2027年度 入学者選抜要項

4

受験料の支払い

選択した支払い方法で受験料を支払います。

3のStep②で取得したお支払い情報を持参し、コンビニエンスストア（レジ、設置端末）・ATMにて受験料を支払います。
領収書は必ず受け取ってください。



サービス利用料について

※受験料のほかに、サービス利用料が必要です。登録時にご確認ください。
※複数回登録する場合、サービス利用料がそれぞれ必要となります。

5

志願票・宛名ラベルの印刷

<https://www.guide.52school.com/guidance/net-thu/>

受験料納入が確認でき次第、入金確認メールを送信します。

メールに記載のURLからガイダンスサイトにアクセスし、志願票・宛名ラベルを印刷し、
市販の封筒（角形2号）に貼付けしてください。

（メールが届かない場合、上記URLからアクセスしてください。）

6

出願書類の提出

本要項P.9を参照し、必要な出願書類を確認してから入試課に提出してください。

出願書類は出願締切日必着です。

※今年度、本学への出願が2回目の場合、受験料の入金が完了した時点で出願完了となりますので、出願書類の再提出は不要です。

出 願 完 了

受験料支払い

1 受験料

今年度の入学者選抜を2回出願する場合、2回目は受験料が軽減されます。

研究科	受験料	
	1回目	2回目
健康科学研究科	35,000円	15,000円

※本学出身者は受験料が免除となりますので、手続方法について別途留意事項がございます。受験料を納付する前に必ず入試課に連絡してください。

2 受験料支払い方法（受験料は出願期間内に納付してください）

コンビニエンスストア・クレジットカード・ペイジー・ネットバンキングからの支払い

P.11～P.12「インターネット出願の流れ・受験料支払いの利用手順」参照

なお、納付された受験料は、理由のいかんにかかわらず返還できません。

出願書類提出方法

出願情報をインターネット上で登録し、受験料を納付したうえで、出願に必要な書類（P.9参照）を出願期間内に郵送または直接来学にて提出してください。

【重要】

出願後は、試験日を含む出願内容の変更はできません。また、いかなる場合においても、出願後の書類および受験料の返還はいたしません。

必ず、出願資格から入学手続に至るまでの諸要件を十分にご確認・ご理解のうえで出願してください。

● 郵送による提出

出願書類は市販の角形2号封筒に入れ、インターネット出願システムのマイページからカラー印刷した「出願用宛名ラベル」を貼付のうえ、**簡易書留・速達郵便**で郵送してください。

※出願期間内必着です。**消印有効ではありません**のでご注意ください。

● 直接来学による提出

出願期間内に、出願書類を入試課へ持参してください。

受付時間 平日 9:00～16:00 土曜日 9:00～12:00

※日曜、祝日の事務取扱いはいたしません。

また、9/26、2/13は入館不可となるためご注意ください。

出願書類提出場所（地図はP.18参照）

池袋キャンパス MiNoRiセントラル 入試課 〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4

※池袋キャンパス以外のキャンパスでは、出願受付は行っておりません。

受験票の確認

● 受験票の印刷

インターネット出願画面のマイページメニューの「オンライン受験票」より確認・印刷ができます。前日になっても受験票が確認できない場合は、入試課へ電話で照会してください。

● 受験票に関するご注意

- ・記載内容に誤りがないか、必ずご確認ください（出願時の登録・入力ミスによる内容の変更はできません）。
- ・受験票には顔写真は表示されません。また、印刷した受験票に顔写真を貼付する必要もありません。
- ・受験票は試験当日に使用しますので、必ず持参してください。

■ 受験上の注意

① 試験場

試験場は帝京平成大学池袋キャンパス MiNoRiセントラルです。

※インターネット出願時は「東京試験場」と表示されますが、健康科学研究科（修士課程・博士課程）の試験場は池袋キャンパス MiNoRiセントラルのみです。

② 集合時間

集合時間は9:00です。机の上に貼付された受験番号ラベルを確認のうえ着席し、試験監督者・係員の指示に従ってください。

なお、試験場は8:00開場です（8:00以前は入館できません）。

9:15から受験上の注意について伝達し、9:30から試験を開始します。

遅刻時の最終入室時刻は9:50までとなります。それ以降の入室は一切認めません。

③ 持参品

① 受験票

受験票は、インターネット出願画面のマイページメニューにある「オンライン受験票」をご自身で印刷して持参してください。試験場入室後は、机の上に提示してください。受験票を忘れた場合や紛失した場合は、試験当日に総合受付に申し出てください。

② 筆記用具（定規・コンパス・下敷き等の使用は認めません）

③ 時計（時計機能のみのもの）

- 辞書、電卓、通信端末等の機能を有するもの、またはそれらの機能の有無が判別しにくいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマーや学習タイマー、大型の時計の使用は認めません。
- 携帯電話、スマートフォン等を時計として使用することはできません。携帯電話、スマートフォン等は必ず電源を切り、アラームを解除してかばんの中にしまってください。かばんは中身が見えないよう閉じ、椅子の下に置いてください。
- 試験時間中に、携帯電話・スマートフォン・腕時計型端末等を机の上に置いたり、身につけていることが確認された場合は、不正行為とみなします。
- 当日、時計の貸し出しはできません。

④ 服装

服装については自由です。（例：スーツなど）

⑤ 試験中の注意

①途中退場は認めません。体調不良等、やむを得ない事情の場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。

②試験時間中に以下の不正行為または不正行為の疑いがあると判断された場合は、退室を命じ、失格となることがあります。

- (1) 監督者の指示に従わないこと。
- (2) カンニング（他の受験者の答案等を見ること、カンニングペーパーの使用等）をすること。
- (3) 使用を認められていない用具を使用して解答すること。
- (4) 電子辞書・携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等）・タブレット端末・ICレコーダー・イヤホン・音楽プレーヤー等の電子機器類を使用（机の上に置く等）、または身につけていること（面接控室等での待機時間を含む）。
- (5) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

上記の不正行為が認められた場合、それ以降の受験および当該年度における本学のすべての入学者選抜の受験を認めません。なお、その際に受験料の返還は行いません。

合格発表

合格発表は、発表日（13:00～）から入学手続締切日（～23:59）まで、インターネットによる合否照会を実施します。
合否照会の方法については、下記をご参照ください。本学への電話等によるお問い合わせには応じることはできません。
また、操作ミス等によるトラブルについては、本学は一切責任を負いません。

● インターネットによる合否照会

以下のURLにアクセスし、インターネット出願システムのマイページ「合否結果」からご確認ください。

<https://www.guide.52school.com/guidance/net-thu/>（パソコン・スマートフォン共通）

● インターネットによる合否照会における結果表示について

合格の場合



オンライン合否照会

大学院 1 期

合格	学部学科	受験番号
	〇〇研究科（〇〇課程）〇〇専攻	123456

合格おめでとうございます。

不合格の場合



オンライン合否照会

大学院 1 期

不合格	学部学科	受験番号
	〇〇研究科（〇〇課程）〇〇専攻	123456

残念ながら、不合格です。

※画面は開発中のものであり、実際の操作画面と異なる可能性がございますので、ご了承ください。

入学手続

入学手続方法

入学手続は、インターネット出願システムのマイページ「入学手続き」にアクセスし、「納付金の納付」と「入学手続時情報の入力・手続書類の送付」を必ず行ってください。

入学手続締切日までに手続を行わない場合は、入学を許可しません。

- 合格された方は「入学手続き」内、「入学手続の手引き」、「入学手続ガイダンスページ」で手続方法をよく確認のうえ、間違いのないようにしてください。
- 入学手続締切日までに上記手続が完了していない場合は、当該合格者に入学の意思がないものとみなし、締切後の入学手続は一切受け付けません。
- 納付金の納付は半期分納付と年額納付が選択できます。
- 提出する入学手続書類は、入学手続締切日当日の消印有効とします。ただし、**卒業証明書は必着です**。
- 納付した納付金のうち入学金、および提出した書類は入学手続完了の有無にかかわらず返還しません。

入学手続 ※入学手続締切日（P.5～P.6 参照）まで

- 「入学手続き」にアクセスして、「入学手続時情報入力」に必要な項目を入力してください。
- 「振込依頼書」をダウンロードして納付してください。金融機関領収印は締切日当日まで有効とします。

入学後情報の入力 ※2027年3月31日（水）まで

「入学手続き」にアクセスして、「入学後情報入力」に原則、全ての項目を入力してください。

納付金

- ・学内出身者は入学金を免除します。
- ・教科書等については、別途費用がかかります。（単位：円）

区 分	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計（入学手続時）
	入学時のみ	半期分 （年額）	半期分 （年額）	入学時のみ	半期分納付の場合 （年額納付の場合）
修 士 課 程	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750 (1,161,750)
博 士 課 程	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600 (1,162,600)

長期履修学生制度

社会人入学者を対象に、通常2年間で修了する課程を3年間で計画的に履修する制度です。

授業料は2年分を概ね3等分して納付いただきます。

なお、施設設備整備費は3年分納付いただきます。

※申請は出願時のみ受け付けます。入学後の変更はできません。

修 士 課 程	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600 (922,600)
---------	---------	----------------------	----------------------	-------	----------------------

※2年次、3年次納付金（年額）：700,000円（授業料：500,000円、施設設備整備費：200,000円）

通常3年のところ4年かけて修了したいと希望する者（授業料3年分を概ね4等分。なお、施設設備整備費は4年分納付いただきます。）

博 士 課 程	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300 (973,300)
---------	---------	----------------------	----------------------	-------	----------------------

※2年次～4年次納付金（年額）：770,000円（授業料：570,000円、施設設備整備費：200,000円）

提携教育ローン

本学では、株式会社ジャックスの提携教育ローン制度を導入しております。
(照会先)・株式会社ジャックス コンシューマデスク TEL.0120-338-817
・本学ホームページ (<https://www.thu.ac.jp/exam/expenses/loan>)

国の教育ローン

株式会社日本政策金融公庫 教育ローンコールセンター TEL.0570-008656 <https://www.jfc.go.jp/>

● 入学許可の取消しについて

本学の合格通知を受けた方であっても、入学手続き完了の有無にかかわらず、以下のいずれかに該当する事由（事実）が判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。

1. 出願書類や提出書類等に虚偽の記載、重大な事実の隠蔽、その他の不正行為があった場合
2. 入学者選抜試験において、不正行為（カンニング等）があった場合
3. 2027年3月31日までに、本学が定める入学資格を満たしていることが確認できない場合（卒業証明書等の未提出、在留資格「留学」の取得が確認できない場合等）
4. 入学前において、法令に違反する行為、社会秩序を著しく乱す行為、または本学の名誉もしくは信用を損なう行為があった際に、その事実について処分・結果が未だなされていない場合
5. その他、本学の学生として不適当と認められる重大な事由がある場合

※上記事由により入学許可が取り消された場合、すでに納付された入学金および学費等は返還しません。

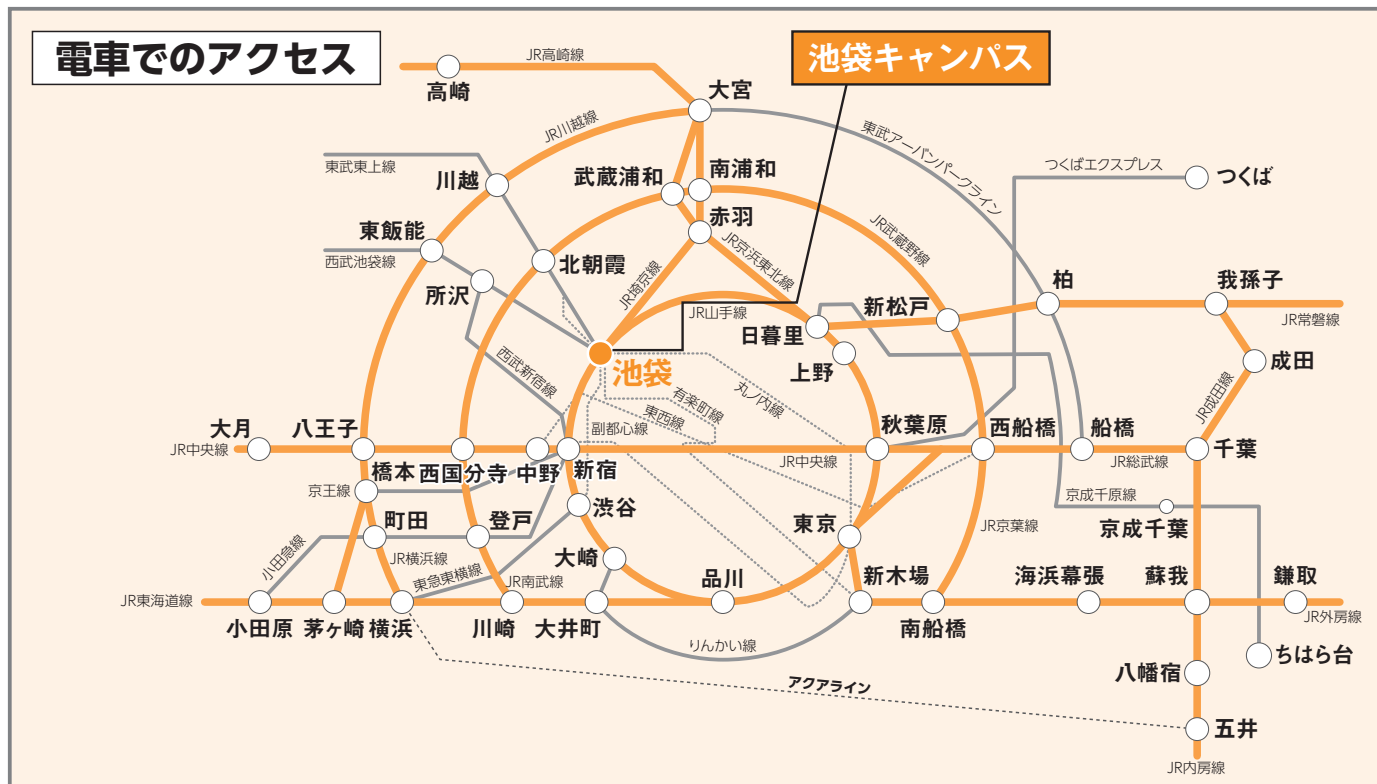
● 入学辞退手続

入学手続後に入学を辞退する方は、**2027年3月31日（水）16:00までに**入学手続ページ内の「入学辞退手続」ボタンから、入学辞退の申請手続を行ってください。手続完了後、入学金を除いた納付金の返還を受けることができます。

- ・入学辞退申請後の入学辞退の取消はできません。
- ・上記期限までに申し出のない場合、納付金は一切返還しません。
- ・納付金の返還は、申請日の翌月末に行います。

試験場案内図

事前の試験場の下見は、交通機関・道順・所要時間・試験場の位置を調べるにとどめてください。
試験場への立ち入りはできません。



池袋キャンパス

所在地 東京都豊島区東池袋 2-51-4
TEL. 03-5843-3200
☎ 0120-918-392 (入試相談)

- JR・各線「池袋駅」
東口から：徒歩12分
- 東京メトロ有楽町線
「東池袋駅」
2番出口から：徒歩10分
- 都電荒川線
「向原」から：徒歩10分



健康科学研究科

修士課程

全専攻共通

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
共通科目	健康科学研究法特論Ⅰ	研究倫理(倫理審査を受ける方法を含む)、科学論文の構成、目的に応じた研究デザインの設定と研究計画の作成法、データ収集と分析方法(医療・生物学分野の基本的統計学)等を学修する。文献を通じて研究の実例から、信頼性の高い情報(科学的エビデンス)の収集・利用法や文献の批判的読解法も学ぶ。これらを通じて、倫理指針等の趣旨に沿った倫理的配慮のもとで研究を適切に実施するために必要な倫理的および科学的観点からの知識・技術を修得することを目標とする。
	健康科学研究法特論Ⅱ	院生各自の具体的な研究方法是「健康科学特別研究」で研究指導教員から学ぶことになっている。しかし、異なる研究分野における研究手法など、自分の研究では学修できないような研究内容を知ることも必要である。このような観点から、本科目は「健康科学研究法特論Ⅰ」に続く共通科目として設定し、健康科学の各分野の研究手法と研究論文作成のプロセスをより深く理解し、習熟することを到達目標とする。具体的な研究例を学ぶことを通じて、研究計画の立案、データ収集と分析、研究成果のまとめ方、およびプレゼンテーションに関する知識とスキルを身に付ける。
	医療統計学特論	科学的根拠に基づく医療(Evidence-Based Medicine: EBM)を実現させるために様々な研究が行われており、その結果を判断する上で統計学はとても重要な役割を果たしている。そのため研究デザインの段階で得られるデータの性質や解析手法をきちんと考え決めておく必要がある。本講義では、統計学におけるデータ解析の基礎的な内容から始まり、主要な統計手法について講義を行い、修士課程での研究における統計処理をSPSSを用いて実践し学修する。
	医療教育学特論	保健医療専門職として、後進育成のために必要な教育学に関する基礎的知識と教育方法を学ぶことが目的である。また、現在の保健医療福祉領域で課題となる多重問題ケースに対応するために多職種連携教育・協働について学び、リーダーシップを担うべく知識と技術の基盤を修得することも目的とする。
	保健医療管理学特論	保健や医療サービスシステムの現状を把握するとともに保健医療に携わる医療関連職種が直面している課題について討議し、サービスシステムを説明し課題を明らかにすることができるようにする。患者ケアシステムを実行する上で不可欠なマネジメントを学び、専門的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。他職種の医療サービスシステムを学ぶことで他職種連携についての理解を深め、多職種協働の実践に役立てる。
	健康医科学特論	臨床現場で関わる傷病・疾患は各医療専門職により異なる。しかし、罹患率の高い生活習慣病などに関する知識は、すべての医療専門職に必要である。臨床医学分野の最新の知識を学ぶことは、自らの生涯学習として有用だけでなく、専門職として接する患者や家族の状況を理解し、専門的判断を構築する際に役立つと思われる。 到達目標：臨床医学一般についての知識を広げ、深めることを目標とする。
	医科学英語特論	科学的研究分野で使われる英語や医療英語は、一般的英語と異なる点がある。英会話を含め一般的英語が得意な人でも、医療や研究分野の専門英語に慣れる必要がある。専門職業人や教育者、特に研究者をめざす大学院修士課程の院生にとって、専門分野の英語文の読解や作成能力は将来必要な基礎学力である。 到達目標：この授業では、健康科学や医学医療分野の英文読解力を向上させることを主目標とする。
研究科目	健康科学特別研究	指導教員の指導下で修士研究を行い修士論文を作成する研究科目である。2年間の概略は次の通りである。 【1年目】実施予定の研究に関する情報集積を行い、研究の目的と方法を明確にし、研究計画を作成する。研究倫理を理解し、研究倫理教育のコースを修了する。倫理審査の承認後、研究を開始する。 【2年目】研究計画に基づいて研究を遂行し、修士論文を完成させる。研究が計画に沿って進んでいることを確認し、研究結果を分析し考察を行う。研究テーマや研究方法の変更が必要になった場合は、速やかに研究計画を修正する。倫理審査申請書類の再提出など必要な手続きを行う。 到達目標：研究倫理を理解し、倫理審査申請書類の作成を会得する。研究遂行、および論文作成のための基本的スキルを身につける。研究結果をまとめ修士論文を作成する。得られた成果を関連学会等で発表することが望ましい。

※共通科目は、全専攻で科目名は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って担当教員のもと研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 鍼灸学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	基礎鍼灸学特論	本講義の目的は、高度で専門的な鍼灸臨床に必須となる鍼灸の治効理論を修得することである。ここでは、鍼灸刺激が生体に対してどのような機序で影響を及ぼすかについて情報伝達や生体反応を含んだ鍼灸治効の基礎、自律神経や生体防御機構における一般治効理論及び鍼灸の臨床評価について理解を深める。加えて、臨床鍼灸学特論Ⅰ及び臨床鍼灸学特論Ⅱの理解に役立てる。
	臨床鍼灸学特論Ⅰ	臨床鍼灸学特論Ⅰでは、将来の高度で専門的な鍼灸臨床に必要な最近の知見も含めた治効理論を実践的に理解する。ここでは、生体に対する鍼灸刺激により得られる自律神経、生体防御機構などの情報を測定し、その結果を基礎鍼灸学特論で修得した一般治効理論により評価する。これにより実務で求められる客観的なインフォームドコンセント能力を向上させる。
	臨床鍼灸学特論Ⅱ	臨床鍼灸学特論Ⅱでは、様々な疾患や症候に対して科学的根拠にもとづいた鍼灸治療の診断法、治療法について学修する。実際の病態から得られる情報を評価し、基礎鍼灸学特論、臨床鍼灸学特論Ⅰで修得した治効理論を用いて解釈することで、鍼灸治療の診断治療学を客観的に理解する。また、これにより、学際的な成果を自ら報告できる人材を育成する。
	中医学特論	中医学は「整体観念」と「弁証論治」を特徴として、独特の理論体系を確立している。本講義は、中医学理論の基となる古典について、理解を深めることを目的とする。具体的には、中医学理論の背景にある思想とともに、形態観・機能観、病因病機、診察法、診断法、治療法に関する古典の要点について学び、中医学への理解の向上につなげる。
	疼痛制御学特論	痛みによる生体反応と、鍼灸刺激による鎮痛作用のメカニズムを学ぶ。関連する疼痛制御系として、末梢性鎮痛、下行性抑制系、広範性侵害抑制、脊髄後角における鎮痛系などを理解し、臨床に応用することを学ぶ。
	統合医療学特論Ⅰ	統合医療の基礎的知識としてのCAMやEBMを調査した後、統合医療の現状や教育システムの実態と課題、医療行政との関係、東洋の各種伝統医療について、フィールドも含め研修する。その後、EBMの確立に向けた研究の基礎的調査法について学ぶ。
	統合医療学特論Ⅱ	統合医療の先端医学的アプローチによるEBMを目指した研究を実践する。特に鍼灸などに関して、緩和ケア病棟や高齢者福祉関係施設において、最先端医療機器を駆使してEBMを確立する研究や、鍼灸などの応用による生理・心理・生化学的変化についてのヒト試験を行い、英語の論文あるいは報告書として発表する。
	附属治療院特別演習	附属治療院での診察から治療、及びそれらの評価に至る臨床鍼灸の流れを学び臨床力を高める。経験した症例は、病態把握や治療方法などを再検討し、その問題点を整理することで自身での問題解決能力を向上させる。また、カンファレンスにてその考えや問題点を教員や他の学生に発表し、自分の意見を他人に伝え、議論できる能力を身に付ける。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

健康科学研究科

修士課程 鍼灸学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生化学、メタボロミクス	鍼灸の生体に及ぼす作用とその機序について、物質代謝の側面から解析します。鍼灸刺激が物質代謝に及ぼす影響についての研究指導を行います。	教授 和 泉 孝 志
神経免疫学、統合医療	近年、腸内環境や消化管知覚情報が脳の機能に影響を与える根拠が報告され、腸が心の健康に影響を与えるという説に支持が集まっています。鍼灸刺激や生物学的応答調節物質(BRM)が脳と腸に及ぼす影響について神経免疫系の関係を中心とした研究の指導を行います。	教授 久 島 達 也
神経科学(脳機能イメージング)、東洋医学(鍼灸)	情動や認知機能に関わる前頭前野に対する経穴への鍼灸刺激の効果及びその作用機序の解明を目指し、脳機能イメージング法を用いた研究指導を行います。	教授 玉 井 秀 明
社会医学、東洋医学(鍼灸)	社会問題の解決に向けた、鍼灸や触れること(体性感覚刺激)を活かした創意工夫及び臨床研究・疫学研究に関する指導を行います。	教授 宮 崎 彰 吾
鍼灸科学、生理学、神経科学、疼痛制御	鍼灸の生体に及ぼす作用とそのメカニズムについて評価・解析を行います。生理学及び神経科学的な実験技法を用いて、鍼灸刺激の末梢受容から中枢・末梢神経系を介した臓器・器官への作用を明らかにします。	准教授 今 井 賢 治
東洋医学(鍼灸)	東洋医学、特に経穴の効能・主治症・安全性に関する標準化を目標に、古今の文献を対象としたシステムティックレビューやデータベース解析を用いた文献研究の指導を行います。	准教授 渡 邊 大 祐
東洋医学(鍼灸)	痛み(特に筋・筋膜性疼痛)に対する鍼灸の治効機序及び疼痛症状における鍼灸の役割についての研究指導を行います。	准教授 皆 川 陽 一
鍼灸施術の安全管理、運動器障害と鍼灸施術	衛生管理を中心に安全な鍼灸施術の構築に向けて指導を行います。また、中高齢者を中心とした運動器障害に対する鍼灸施術の効果的な活用法に関しての研究指導を行います。	准教授 恒 松 美香子
ロコモティブシンドローム、鍼灸・運動療法、デジタルヘルス	ロコモティブシンドロームに対する鍼灸・運動・セルフケアの応用、デジタル技術を活用したセルフケア・健康増進に関する研究	准教授 池 宗 佐知子
人間医工学(東洋医学、睡眠学、人体美学)	東洋医学のシステムを工学的な手法で評価することを目標として、主に睡眠学と人体美学(美学、顔学、身体学、音声学など、『人』と『美』に関連する分野を総称しています)に着目して研究指導を行います。	講 師 中 村 優
東洋医学(鍼灸)、心身医学、予防医学、スポーツ医学	メンタルヘルスの維持・増進のために、精神、睡眠、認知の観点から心身に対する鍼灸治療の効果を解明することを目指して、基礎・臨床研究の指導を行います。	講 師 脇 英 彰
東洋医学(鍼灸)、生理学、免疫学、消化器内科学	東洋医学と西洋医学を融合し、鍼治療の作用を科学的に解明する新たな研究領域の構築を目指します。特に、免疫・炎症応答、自律神経機能、概日リズム、骨格筋代謝に与える影響について、生理学・生化学解析を組み合わせた基礎研究を指導します。伝統医学の経験知を科学知へと変換し、世界に発信できる研究者を育成します。	講 師 小 峰 昇 一

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 柔道整復学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	柔道整復学特論	柔道整復の取り扱う主要な器官、組織について、その発生、生理、病理、起こりやすい障害形態を学び、運動器のバイオメカニズムを学習した後、運動器疾患・障害の発生機序ならびに修復機序を理解し、運動器疾患に対する治療の原則を学ぶ。 骨折、脱臼、捻挫、打撲、筋腱軟部組織損傷について病態を分析し、徒手検査法を習熟し、また、柔道整復術について適応を定めるとともに、誤りなくそれを行い得る技量を修得する。対象疾患の治療成績を判定し得る解析能力を身に付け、病態の解明、治療の進歩を見据えた基礎的および臨床的研究を学ぶ。
	柔道整復学演習	「柔道整復学特論」を受けて、学んだ基礎知識をもとに、骨折、脱臼、捻挫、打撲、筋腱軟部組織の損傷に対する柔道整復保存治療や徒手の鑑別診断技法の理解と技術のあり方について考察させる。その考察をもとに、まず理論的に実学的技術のあり方についてや、科学的技術として客観性と再現性をもっているかなどについて教員及び学生間で議論する。
	臨床解剖学特論	臨床柔道整復における診察・施術には正確な解剖学的な知識が必要不可欠である。特に運動器外傷・障害の好発部位の解剖学的構造について、より詳しく理解する必要がある。本講義では、運動器外傷・障害の好発部位の解剖学的構造について、担当教員の解剖研究から得られた知見をもとに解説を行う。また国内外の文献から得られた知見から臨床柔道整復に必要な解剖学的な知識を深める。
	臨床研究解析演習	柔道整復におけるEBM (Evidence-Based Medicine) の確立には、柔道整復に関する臨床データを客観的に分析し、その効果を検証することが必要である。本講義では、理論的な仮説に基づいた研究デザインの立て方、データの特性に応じた統計学的手法の選択、統計結果の解釈、臨床データのまとめ方について解説する。実践演習を行いながら臨床データのまとめ方、効果的なプレゼンテーション方法について理解を深め、臨床研究をどのように進めていくのか学ぶ。
	スポーツ医学柔道整復特論	スポーツ医学の基礎となる事項として、外科的スポーツ外傷と障害及び内科的スポーツ障害について解説する。外科的スポーツ外傷と障害では、代表的疾患について基礎的事項(病態、治療)を解説し、柔道整復師としてメディカルチェックや障害の予防をどのように行うべきか論ずる。さらに各疾患のアスレティックリハビリテーションを解説する。内科的スポーツ障害では、呼吸・循環器・代謝領域の代表的疾患の基礎的事項を解説した上で、健康の維持・増進、運動療法等に関連した生体の運動に対する応答と運動トレーニングに対する適応について解説する。
	スポーツ医学柔道整復演習	スポーツ医学及び柔道整復に関する海外及び国内の文献を抄読し、最新の知見を学習した上で、実際にスポーツの現場や様々な施設において外科的疾患に対するアスレティックリハビリテーションプログラムや内科的疾患に対する運動療法プログラムを作成し実践する。また、メディカルチェックや運動療法教室を実践し、その結果を踏まえ学科内でプレゼンテーションを実施し教員及び学生間で議論する。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

健康科学研究科

修士課程 柔道整復学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
スポーツ医学と柔道整復治療学	スポーツ外傷、特に神経外傷に対する柔道整復学的アプローチについて研究しています。関連する研究課題について、研究計画の立案、実験・調査方法、データの収集・解析などを指導します。	教授 展 広 智
臨床柔道整復学(骨折、脱臼、捻挫・筋腱軟部損傷の非観血的療法の治療方法等)・運動器のバイオメカニズム・医療経済学	柔道整復の外傷(骨折、脱臼、捻挫・筋腱軟部損傷)・手技療法などの臨床研究と基礎運動機能の研究を考えています。それに関連する研究計画を作成し、仮説の設定・実験及び調査方法・データの解析法を指導します。	教授 樽 本 修 和
柔道整復教育における教育方法学、教育制度、教育経営	柔道整復教育における学習指導活動についてその中身とそれぞれの活動の関係、特に協働的で主体的・対話的な学びを実現するための教育方法について、および現代の柔道整復教育に資する教育行政の在り方について指導します。	教授 富 田 晴 生
柔道整復教育における教育学	柔道整復教育における教育目的の体系的な検討および現行教育の課題の抽出を行い、これらの改善方策に関する研究を指導します。	教授 牛 込 彰 彦
柔道整復師による災害医療学または外傷治療過程の超音波画像評価学に関する研究	自然災害における柔道整復師の活動・関係法規、外傷治療過程の超音波画像評価を主テーマとし、研究デザインから解析、国内外への応用・実践力の育成まで指導します。	教授 森 倫 範
柔道整復臨床研究・運動器外傷に関連する機能解剖学	柔道整復師が臨床現場で遭遇する疑問点について研究テーマを設定し、研究デザインの立て方、計測・データの収集方法、データの解析方法について指導します。	教授 掛 川 晃
柔道整復臨床応用研究	スポーツ現場や高齢者施設、地域医療において「予防医学」の重要性が高まっています。その中で柔道整復の外傷発生のメカニズムの理解と予防について指導をします。	教授 國 分 義 之
教育学(学校教育、教育経営、教育実践、教員養成・研修)	教育学(学校教育)の実践・経営領域を中心に、システム・カリキュラム構築や実践的指導力育成の視点到重点を置いて指導します。教育学と柔道整復学の学際的な観点から、免許・資格や専門的能力を教育・臨床の場で活用する意義とその具体的な実践に着目しています。	教授 佐 瀬 一 生
スポーツ生理学、スポーツ医学、トレーニング科学	柔道整復施術に活かす運動療法をテーマとし、施術後の機能回復の評価と、スポーツ障害の予防に関する研究を考えています。臨床現場で生じた疑問を研究の形に置き換えたうえで、研究計画の作成、測定・調査方法の設定、データの解析法について指導します。	教授 野 上 順 子
神経機能学関連、教育社会学関連	自然科学として、自律神経系の分野、血流機能、血流の応答性について指導します。また人文科学として、社会学、心理学について指導します。	教授 玉 井 清 志
ライフサイエンス(高齢者介護)、リハビリテーション科学(高齢者の治療)	柔道整復師の専門性を活かし、高齢者の健康寿命延伸や介護予防をテーマとして、日本と海外の介護福祉制度の比較、自立支援、転倒予防および医療・介護連携に関する研究指導をしています。	教授 小野澤 大 輔
スポーツ医学、スポーツ整形外科	少子超高齢社会における柔道整復師の役割	教授 増 島 篤
外傷、医療の教育	柔道整復師の関係する外傷とその対応についての研究を行い、柔道整復師ができることは何かについて解明します。柔道整復師の教育に関する研究を実施し、柔道整復師養成課程でより良い柔道整復師を養成するための研究を実施します。	准教授 佐 藤 裕 二

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床柔道整復学(骨折・脱臼・捻挫・スポーツ障害等における傷害特性の理解と治療方法) 傷害の機能解剖学的理解	身体動作・運動のバイオメカニズムの理解を通じて、柔道整復術への応用可能な身体特性や傷害特性の研究指導を行います。	准教授 原 口 力 也
柔道整復領域に関連した運動器への介入が身体機能におよぼす影響	柔道整復領域にも関連する、体表面へのキネシオテープの貼付、固定、ストレッチングなど運動器への介入が、身体活動や局所筋酸素動態におよぼす影響について、筋電図、NIRS(近赤外線分光法)装置などを使用し測定・評価します。これにより、Control群と比較した各種介入に対する有効性を検討します。	准教授 川 村 茂
柔道整復学・臨床分野(骨折・脱臼・捻挫・スポーツ外傷等)における基礎的研究	本研究室では、柔道整復学の臨床知とスポーツ科学の計測技術を統合し、外傷・障害の予防と機能回復の科学的根拠を探究することを目的とします。 特に、近赤外線分光法(NIRS)を用いた筋組織の酸素動態・代謝機能の評価により、施術後の回復プロセスや運動負荷に対する生体応答を定量的に捉える研究を推進しています。	准教授 木 下 美 聡
柔道整復学、スポーツ科学	身体活動と健康・認知機能との関連、スポーツ経験による身体的・心理的特徴、さらには柔道整復師の職域拡大に関する研究について指導を行います。アンケート調査や身体機能評価、データ解析の方法を指導します。医療・健康・スポーツ分野の課題を科学的に探究し、その成果を社会に還元できる能力を養います。	准教授 高 橋 勇 二
スポーツ生理学・運動生理学、身体特性評価、スポーツ傷害	スポーツ生理学を基盤として、身体特性や傷害特性に関する研究を行い、柔道整復分野への応用を見据えた研究指導を行います。	准教授 清 水 貴 司
柔道整復の歴史および、史・資料の保存に関する研究	柔道整復に関する歴史の諸問題について、文献や史料の発掘と解釈を通じて研究を進め、大正から戦後期にかけての柔道整復の形成過程や、史・資料の保存に関する研究へ展開していきます。 また、これらの領域に問題意識と関心を共有するテーマについて指導を行います。	講 師 湯 浅 有希子

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 健康栄養学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	食材供給学特論	食と栄養の専門家として身に付けなければならない食料の生産と供給の実態を学ぶことを目的とする。わが国は食料の多くを海外に依存していることから、世界的に見た食料生産・供給の安定性や、生産現場から食卓までの食料供給行程の各段階における安全性確保の仕組み、関連の法制度などを学ぶとともに、食料汚染に起因する食品事故の発生メカニズムを解析する能力を養う。
	栄養生化学特論	管理栄養士は、病院や施設における患者や利用者の栄養管理、事業所、学校、保育園等における栄養指導・教育に加え、栄養学の新しい知見を得るための研究活動も担っている。このための専門的知識を修得し、また、演習を通して実践力を養う。さらに、栄養生化学関連分野の研究論文(英文論文を含む)を調べ、理解し、発表する能力を身に付けることにより、実践の場でより高度な栄養指導を行うことができるようになり、また栄養学の最新の知見を正しく評価できるようになる。
	食品機能学特論	近年、食生活や社会環境の変化に伴って様々な生活習慣病が増加している。この対策として、食品の体調節機能への期待が高くなってきていることから、本授業では、食品及びその成分が人体の生理機能に及ぼす影響を理解する。さらに、関連する研究論文を探索、理解し発表する演習を通し、栄養マネジメントや研究に活用できる能力を身につける。
	臨床栄養学特論	肥満症や生活習慣病などの予防と食事療法、食事療法が重要な役割を持つ疾患の診断・治療の理解、入院(所)患者の栄養管理、Nutrition support team (NST) での中核的役割などに関する専門的知識を修得する。また、演習を行うことにより、実践力を身に付ける。独自に関連分野の研究論文を調べ、理解し、発表する能力を培う。
	栄養教育学特論	食育などの栄養教育の現場で、行動科学理論に基づいた栄養教育プログラムの開発や実践・評価法が研究されている。本特論では、栄養教育の行動科学理論や方法論、実践的な栄養教育プログラムに関する理解を深める。さらに、関連分野の研究論文を調べ、理解し、発表する能力を培う。
	食生活学特論	うつと栄養・リハビリテーションと調理実習・高齢者のフレイル・災害栄養、その他食生活に関するテーマの中から興味のある分野を選び、研究論文を調べ、理解し、発表する能力を身に付ける。
	健康増進学特論	健康増進学の視点から、食品・栄養及び健康について、食生活全般を通して科学的に考察し、食生活の社会的背景、諸問題、及び今後の課題に至るまで展開し、理解を深める。健全な生活を営むための食生活のあり方について、生活習慣病の予防、Quality of life (QOL)の向上、及び健康寿命の延伸などの視点から考察し、議論する。健康の保持増進や生活の質の向上を目的として生活習慣病などの一次予防の視点を中心に、個人・集団・地域・栄養課題に対する、アセスメント・計画・実施・評価に関する研究を行う能力を養う。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 健康栄養学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床栄養学	栄養はあらゆる疾病治療の基礎となるものです。いかなる高度な治療技術も栄養状態が悪ければ十分な効果を得ることはできません。疾病の病態を詳細に把握し、それに即した適切な栄養治療を行うことが極めて重要です。各種疾病に関する高度な専門知識を深め、栄養治療に関する最新の知見を身につけ、課題に対して研究することで、栄養治療に関する問題解決能力を養成します。	教授 福島 亮 治
臨床栄養	臨床栄養学	教授 尾 花 和 子
健康管理学	日本人の三大死因の1つのがんは食習慣などの生活習慣が関係しています。がんを予防するための食生活について文献検索し、がん患者の生活の実態を調査し、栄養や食事の面からがんを予防する方法を検討し、健康の維持管理について研究します。また、がん患者の治療中の食事摂取や栄養摂取状況について調査し、治療中のがん患者の健康状態の向上について検討します。	教授 牟 田 真理子
応用栄養学	主に、以下の課題に対する研究、及び研究結果を現場で活かす力を養います。 ・うつ病患者の栄養管理、および認知リハビリテーションとしての調理実習 ・高齢者のフレイルと栄養管理 ・災害時の栄養管理 ・ナトカリ比を活用した地域の高血圧予防 ・国際栄養(途上国での栄養支援) ・その他、食生活に関するテーマ	教授 野 口 律 奈
食品科学・おいしさの科学	食品の二次機能である「おいしさ」や「食べる喜び」は、香り、味、食感、色調、外観、組織構造など、ヒトが五感を通して感じる多様な品質特性によって形成される。これらの食品品質を、最新の分析機器や計測技術を用いて科学的・客観的に評価する研究に取り組んでいる。特に、ノンターゲットVOCオミクスによる香気成分の網羅的解析から、食品固有の風味プロファイルの解明や、おいしさ特徴づける新規成分・品質指標の探索を進めている。さらに、得られた大規模データを多変量解析やAI・機械学習と融合し、製造・加工・保存に伴う品質変化の解明・予測と、新たなおいしさの創出を目指している。これらの研究を通じて、食品品質の向上、食品ロスの低減、健康で豊かな食生活とQOLの向上に貢献する食品科学技術の開発に取り組んでいる。	教授 前 田 竜 郎
食品作用学	ハーブやスパイスは、古来より、抗菌作用や防腐作用を目的として経験的に使用されてきました。近年、これら植物およびその成分・抽出物の多くは、抗炎症作用や抗感染作用などを有し、生体防御系にも深く関与していることが科学的に明らかになってきています。ハーブやスパイスが微生物にどのように作用するのか、私たちの生体防御系にどのように影響を与えるのかに関して、伝統的な使用方法との比較も行いつつ、国内外の論文を調べ、考察し、今後の可能性について研究します。	教授 丸 山 奈 保
生命科学	本研究では、免疫応答の中核を担うヒト白血球抗原(HLA)の多型に着目し、その機能的意義を分子・細胞レベルで解明することを目的とします。HLA遺伝子は多様性に富み、免疫応答や疾患感受性、移植適合性などに深く関わることから、NGS法や培養細胞実験系を活用し、特定のHLAアレルが免疫機能に与える影響を解析します。本研究を通じて、個別化医療の基盤となる遺伝学の理解を深めるとともに、自己免疫疾患や感染症分野への応用を目指します。	教授 水 谷 晃 子
行動毒性学	どのような物質も過剰投与で毒性を示しますが、環境ホルモンでは基準値以下の低用量曝露が脳・神経系へ及ぼす影響が注視されています。本研究は動物実験で、毒性症状に至らない独特の行動パターンの変化に着目します。解析にはAI技術も活用し、新たな評価法の確立を目指す一方、最新文献の精査・考察を通じた新たな可能性の探求も行います。	准教授 藤 本 哲 也

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容Q
&
A

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
健康増進学	生活習慣病の予防、Quality of life (QOL) の向上、及び健康寿命の延伸などについて、人々の健康に関する正しい情報を入手し理解し活用する能力であるヘルスリテラシーや市民、患者、医療従事者を含めたヘルスコミュニケーションの観点から考察し、研究を行います。健康の保持増進や生活の質の向上を目的として疾病予防の予防行動並びに慢性疾患患者の自己管理の視点も含めて、どのような課題や関連要因があるのかを明らかにして、対処行動や対策が必要になるのかという課題解決に向けた研究を行う能力を養います。	准教授 上野 治 香
栄養管理学	人体の栄養状態を適正に保つことは、疾病の予防、治療、重症化予防、介護予防に貢献しますが、傷病者、要支援・要介護者は栄養状態を良好に保つことが困難なことがあります。そこで、その阻害要因を明らかにし、人々の健康とQOL向上に寄与できる栄養管理法や食環境整備の方法を研究します。	准教授 高橋 寛 子
分子生理学	栄養状態や運動、ストレス、疾病に伴って、生体内では遺伝子、タンパク質、代謝物が変化します。特に注目しているのが、揮発性有機化合物です。これらの化合物の中には、体内のどこで、どのような過程を経て生じ、何を反映しているのかが明らかになっていないものが数多くあります。こうした生体応答の仕組みを明らかにするため、ヒトや動物から得られた血液や臓器などの生体試料と培養細胞を対象に、網羅的遺伝子発現解析 (RNA-seq)、質量分析によるノンターゲットオミックス解析を行います。栄養、運動、炎症などに伴って変化する分子を探索し、見いだした分子の働きを細胞実験で検証するとともに、揮発性有機化合物の由来や生理的意義の解明に取り組んでいます。また、機能未知のオーファン受容体が関わる新たな情報伝達系を探索しています。ヒトを対象とした研究では、アスリートの急速減量に伴う生体応答メカニズムの解明を進めています。これまで見過ごされてきた生体応答を分子レベルで捉え、新たな生体指標や健康・疾病評価につながる研究領域を切り拓くことを目指します。	准教授 長谷川 和 哉
給食経営管理学	管理栄養士・栄養士の固有の業務は「栄養の指導」であり、その一環として、給食施設では、特定多数の人々を対象に適切な栄養管理を実施することが求められます。そこで、適切な栄養管理を行うための前提となる栄養評価や食事管理に関する研究を行います。さらに、給食施設における食事の品質管理や生産管理についても、栄養管理の視点を踏まえて探究し、給食施設における栄養管理に関する課題解決能力を養います。	講 師 野 原 健 吾

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 言語聴覚学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	言語聴覚学特論	言語聴覚障害の基本として、健常者の言語・コミュニケーションの生涯発達について学習する。言語・コミュニケーション過程には様々な要因が関与しており、視線、表情などの非言語的要因や、話しことばの受容に関連する聴覚機能や注意機能、表出に関連する構音、語用論の問題などの言語的要因などが関わっている。それらの要因について考察し、さらに乳幼児期から老年期にいたる言語・コミュニケーションの発達とそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化を、生涯発達の視点から学び、言語聴覚障害研究の基礎力を身につける。
	言語聴覚学演習	言語・コミュニケーションに関与している諸要因、さらに乳幼児期から老年期にいたる言語・コミュニケーションの発達とそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化に関する基礎・臨床研究について、具体的な臨床データの分析・解釈、内外の文献講読、発表、討論を通し理解を深める。
	言語聴覚障害学特論	言語・コミュニケーションが阻害される要因として、知的・認知的発達やその基盤となる運動機能の発達、対人社会性の発達、聴覚機能の発達、摂食・嚥下機能の発達、構音の発達など発達上の問題と、言語・コミュニケーション能力獲得後に障害を受けた場合の後天性障害がある。ここでは先天的・後天的諸要因、及び個人を取り巻く環境要因、双方によってもたらされる言語・コミュニケーションの多様な諸問題について、多面的な視点から評価・分析するための最新の知識と研究方法を修得する。当事者が日常で抱える問題性も含め、個人を包括的に捉える方法論を学ぶ。
	言語聴覚障害学演習	先天的、または後天的諸要因と個人を取り巻く環境要因双方によってもたらされる言語・コミュニケーションの諸問題を評価・分析するための様々な方法論に関する基礎・臨床研究について、具体的な臨床データの分析・解釈、内外の文献講読、発表、討論を通し理解を深める。また、具体的な臨床研究データをもとに、個人を包括的に捉える方法論を演習を通して修得する。
	言語聴覚療法学特論	言語・コミュニケーション障害をもつ対象者に対する機能訓練の技法と訓練効果の検証法等について修得する。また、生活支援、家族支援、教育支援、就労支援の視点から、障がいをもった個人及び彼らを取り巻く人々への臨床実践のあり方や、地域社会への働きかけの方法について、効果的な実践法を検討する。
	言語聴覚療法学演習	言語・コミュニケーション障害、その基礎となる認知機能、高次脳機能、発声・発語機能、聴覚を中心とした感覚機能の障害に対する訓練方法と訓練効果の検証法等に関する基礎・臨床研究について、具体的な臨床データの分析・解釈、内外の文献講読、発表、討論を通し理解を深める。また、リハビリテーション研究の具体例を通して障がいをもった個人及び彼らを取り巻く人々への訓練・支援の臨床実践のあり方や、地域社会への働きかけの方法論を演習を通して修得する。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 言語聴覚学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
聴覚障がい児・者および盲ろう児・者のコミュニケーションとQOL、臨床発達支援に関連する分野	聴覚障害者(あるいは盲ろう者)のwell-being(健康で幸福な生活)の視点から、より良いコミュニケーション支援のあり方について検討します。研究指導では、エピソード記述を用いて当事者と支援者、家族、社会との関係性の在りようを質的に吟味し、支援する側の在りようも対象とした検討を行います。	教授 黒田生子
失語症・高次脳機能障害の評価・訓練・指導に関する分野	失語症・高次脳機能障害に関する基礎的、臨床的な研究について対応します。特に失語症の会話や談話の分析方法などについて指導を行います。	教授 相馬有里
言語・非言語コミュニケーション障害の脳内メカニズムに関する認知神経心理学的アプローチ	脳血管障害や神経変性疾患などにより、脳の一部あるいは脳内ネットワークが破綻をきたしたとき、どのようなコミュニケーション障害が生じるのかについて研究しています。特に、顔や表情認知とその障害をきたす脳領域、描画発達とコミュニケーション障害の関係などが関心領域です。研究指導では、研究プランの立て方や脳画像を含むデータの見方から、効果的な論文作成の方法までを指導します。	教授 永井知代子
臨床心理学	言語聴覚療法における臨床心理学的アプローチについて指導します。	教授 鵜木恵子
実験心理学、認知科学	聴覚障害の方の感覚・知覚に関する研究について指導します。	教授 川島尊之
小児領域の発声発語障害の評価、訓練、指導に関する分野	小児の発声発語障害の中で、特に機能性、器質性構音障害に関する基礎的、臨床的な研究について取り上げます。音声の聴覚判定および機器を用いた鼻咽腔閉鎖機能の評価に関する基礎的研究についても指導を行います。	准教授 佐藤亜紀子
地域包括ケアシステムにおける言語聴覚療法の評価と多職種連携の効果判定に関する分野	地域言語聴覚療法における実践研究の手法について指導します。在宅療養支援における効果判定とチーム形成プロセスの分析を通じて、現場での実践経験を適切に言語化・構造化する手法を身につけることを目指します。	准教授 山本 徹
聴覚障害児の言語発達の評価に関する分野	幼児期から学童期の聴覚障害児の言語発達、特に状況文脈の理解など語用論的な側面に関する評価について指導を行います。	准教授 野原 信
小児期発症の失語症・高次脳機能障害の評価・訓練・支援に関する分野	小児期に発症した失語症・高次脳機能障害について対応します。当事者への評価・訓練・支援、家族支援、医療と教育・福祉との連携について指導します。	講師 廣瀬綾奈

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 作業療法学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	身体障害作業療法学特論	身体障害者について、ICFモデルにもとづく機能・器質障害に焦点をあて、活動及び社会参加を阻害する要因との関係について学び、障害の解決に有効な手法等について、内外の文献を調べ考察を深める。特に中枢神経疾患により生ずる身体機能障害を医学的に理解し、最新の知見をもと障害に即した適切な評価法・治療法などの臨床場面での展開につなげる。
	身体障害作業療法学演習	身体障害作業療法学特論で学んだ知識・知見をもとに、演習では、主として障害に即した動作解析などの各種評価法を行い検証するための具体的な手法を学ぶ。
	作業活動分析学特論	健常者や肢体不自由者を対象に、人の身体機能と活動・動作の関係を運動学的視点から分析し、身体機能と合理的な動作との関係、効率の良い動作とはどのようなものか探索を深める。具体的には、内外の文献検索による先行研究に基づき、仮説を検証するために必要な動作解析などの分析方法を用いた解決手法を学ぶ。
	作業活動分析学演習	作業活動で必要とされる上肢機能の運動学的理解を深めるための、手の模型の作成を行い、手の動作の成り立ちを運動学・生体工学的に理解する。その上で各種上肢機能障害の影響について分析し、その障害の成り立ちについて理解を深める。また、国内外の先行研究にもとづき、テーマを抽出し、仮説を立て各種測定機器を用いた小規模な測定計画の作成、測定の実施、分析し検討を行う。
	生活障害作業療法学特論	障がいの有無にかかわらず高齢者を含むすべての地域に暮らす人を対象に、機能障害が生活関連の諸活動や社会参加にどのように影響するのか、阻害要因を分析し、解決に有効な手法を探索し考察を深める。具体的には、生活障害に関連した内外の文献を精読し、障害の要因と解決手法について考察を深める。
	生活障害作業療法学演習	国内外の自らの関心のあるテーマに関連する先行研究を精読し、作業療法における対象者の生活障害の評価および介入、さらに生活障害に関連する作業療法の研究方法を検討し、過去の研究動向を把握し、考察を深める。対象者の生活支援担当者や専門家からも情報収集を行い、自らの研究テーマの抽出につなげる。
	リハビリテーション専門職教育学特論	本授業はリハビリテーション専門職の養成校教員を目指す方のための授業である。講義と演習を併用し、リハビリテーション専門職に関する科目を1つ担当したという設定により、カリキュラム構成・シラバス作成・授業計画・模擬授業・授業評価を行う。これにより、担当科目に関する知識を単に伝えるのではなく、養成課程全体を俯瞰した中で、より効果的な授業設計・評価方法を設定できるようになることをねらいとする。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容Q
&
A

健康科学研究科

修士課程 作業療法学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
障がい者等の動作・活動時の主として身体機能の分析と介入分析に基づく生活支援機器、などを用いた環境調整による作業療法	障がい者・高齢者の作業遂行能力障害とその予防について、主として身体機能面の運動学・生体力学的手法による分析と機能改善、障害に応じた生活支援機器や住環境などの生活環境調整による作業療法について研究指導を行います。	教授 根本 悟 子
障がい者の運動および身体機能と複合的疾患関連の評価	障がい者・高齢者の直面する様々な生活活動局面に必要とされる身体機能・運動機能評価について、複合的な合併疾患の関連を考慮しつつ、より良い治療計画を可能とする基本的評価法の提案を目指します。	教授 江 面 陽 一
障がい児・者の生活活動における身体機能低下の分析と介入及び環境調整	身体障害、老年期障害及び発達障がい児・者を対象に、生活活動における身体機能低下(特に廃用症候群等)を人間工学的に分析し、予防的介入と共に環境調整の手段を探究します。	教授 樋 口 正 勝
高齢者のWell-being、超高齢社会における地域リハビリテーションに関わる作業療法	障がいの有無にかかわらず高齢者を含むすべての地域に暮らす人に関わるリハビリテーション、心身の健康とQOLに必要な介入や環境調整、家族支援、日常生活・生活関連活動の維持、余暇社会活動への参加・地域貢献や自己実現の機会の提供、さらに地域コミュニティの仕組みづくり等に関わる作業療法の現状分析と支援法について研究指導を行います。	教授 菊 池 和 美
障がい者等の感覚と外部環境、認知機能に対する他覚的調査・分析・介入について	ADLやIADLの維持・向上に関係する外部環境や五感の状態、障害のプロフィールを踏まえた作業療法プログラムの設計や生活上の注意・支援を分析し、ICFやQOLを意識しながら介入できるよう指導を行います。特に、神経変性疾患領域では、記憶、感情、情動と深く関係する嗅覚障害や、パーソン・センタード・ケア的な視点、五感のバランスの状態と意義などから考えられるよう指導します。	教授 関 一 彦
生体医工学関連	リハビリテーションの一環として、褥瘡の予防・早期発見に向けた姿勢・動作評価等の褥瘡の「予防」「リスク評価」「早期発見」「姿勢・動作評価」について研究指導を行います。	教授 喬 炎
精神障がいリハビリテーション関連	精神障がいのある人のスポーツについて、その意義や実施・普及のあり方など、幅広い視点から研究指導を行います。またメンタルヘルス領域における早期予防教育についても研究指導を行います。	教授 鎗 田 英 樹
認知症高齢者とその家族に対する作業療法、作業療法士のキャリア教育	認知症高齢者(特に重度認知症)とその家族に対する心理的援助、作業療法の介入方法について研究指導を行います。また、作業療法士養成課程ならびに卒後における、臨床教育の現状分析と教育方法について研究指導を行います。	准教授 伊 藤 剛
認知行動療法の作業療法への応用 回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の役割 多職種連携教育・協働	認知行動療法を作業療法に応用した支援方法ならびに認知作業療法を用いた支援方法について研究指導を行います。また、回復期リハビリテーション病棟での作業療法士の役割や多職種連携教育、多職種連携協働についても研究指導を行います。	准教授 下 岡 隆 之
精神科リハビリテーション・精神科作業療法の評価と介入について	主に精神科リハビリテーションにおける認知行動療法の有用性を統合失調症やうつ、社交不安症の患者さんへの支援や介入に関する効果等について研究指導を行います。また、精神科訪問看護などにおける作業療法士の支援や、モルックを活動として取り入れた地域在住高齢者の健康増進の研究指導も行います。	准教授 勝 嶋 雅 之

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 理学療法学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	基礎理学療法学特論	理学療法の発展を科学的基礎から支え、関心領域を探究する上で、その枠組みとなる基礎的知見や科学的手法を理解し、研究計画のデザインに必要な理論的枠組みを学習する。ここでは「統計学」「姿勢と運動機能(高齢者・浮き趾)」「脳卒中とロボット」「スポーツ」の領域について理解を深める。
	臨床理学療法学特論	理学療法士の活躍の場が多様化している中で、我々の考え方も柔軟に、さらに拡大する必要がある。この授業では、スポーツ、ロボット工学、超急性期医療、行動科学と、色々なトピックスを扱うことで、理学療法士として新たな視点を獲得することを目的とする。
	生活支援学特論	「生活環境支援理学療法専門分野(支援工学理学療法、予防理学療法、地域理学療法を含む)」に準じた範囲のテーマを取り上げ、障害者・高齢者等の支援の在り方や方策について学修します。授業は、担当講師による概要の講義、受講生によるテーマに即したプレゼンテーションやディスカッション(ある種の生活の支障(しづらさ)を想定し、どのような生活支援が相応しいか調べ、その内容を自ら吟味し発表する)で構成します。
	理学療法研究方法特論Ⅰ	理学療法学分野における研究の基礎をグループディスカッション形式で学ぶ。理学療法研究方法論Ⅰでは、倫理的配慮、研究の意義、目的、研究方法の選択、データ収集、結果分析、参考文献管理など、研究活動を行う上で留意すべき点について学修する。
	理学療法研究方法特論Ⅱ	理学療法学分野における研究の応用・実践をグループディスカッション形式で学ぶ。理学療法研究方法論Ⅱでは、研究から得られた結果を分析・考察してまとめていくこと、また相手に伝わりやすいプレゼンテーションの方法などを発表を通して学修する。
	リハビリテーション専門職教育学特論	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の養成校教員を目指す者を対象とした科目である。本科目の到達目標は、履修生が養成課程全体を俯瞰した中で、より効果的な授業設計・教育方略・評価方法を設定できる事である。講義・演習を通して教育の実践能力を養う。
	アスレティックリハビリテーション特論	アスレティックリハビリテーションとは、競技者がけがをした後、元の競技により早く安全に復帰させることを目的としたリハビリテーションである。本講義ではアスレティックリハビリテーションの概念を理解し、代表的なスポーツ傷害に対応できる基礎的知識及び実践能力を修得する。
自由科目	スポーツと理学療法	スポーツと理学療法をテーマとし、スポーツに取り組む対象者が、効率よく安全にスポーツ活動を実践できるよう、理学療法士の知識や技能を習得する。復帰を目標とした外傷後や疾病後のリハビリテーション、スポーツ活動時の外傷予防、疾病予防などを学修する。
	認定理学療法士カリキュラムⅠ(スポーツ)	日本理学療法士協会認定理学療法士臨床認定カリキュラムシラバス(必須科目)の内容に則り、専門性の高い臨床技能を有する「スペシャリスト」を養成するための専門的な内容を実施します。スポーツ傷害に対する理学療法に関する知識と技能を習得し、安全で適切に実践することができる高い専門性の人材を育成するため、目的、意義、方法をふまへ高度専門職としての実践貢献の基礎を学修する。
	認定理学療法士カリキュラムⅡ(スポーツ)	日本理学療法士協会認定理学療法士臨床認定カリキュラムシラバス(選択科目)の内容に則り、専門性の高い臨床技能を有する「スペシャリスト」を養成するための専門的な内容を実施します。スポーツ傷害に対する理学療法に関する知識と技能を習得し、安全で適切に実践することができる高い専門性の人材を育成するため、目的、意義、方法をふまへ高度専門職としての実践貢献の基礎を疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編)として学修する。
	認定理学療法士カリキュラムⅠ(呼吸)	日本理学療法士協会認定理学療法士臨床認定カリキュラムシラバス(必須科目)の内容に準じて行う。呼吸器疾患、呼吸機能低下などによる呼吸障害の理学療法に関する知識と技能を習得し、安全で適切に実践することができる高い専門性の人材を育成するため、目的、意義、方法をふまへ高度専門職としての実践貢献の基礎を学修する。
	認定理学療法士カリキュラムⅡ(呼吸)	日本理学療法士協会認定理学療法士臨床認定カリキュラムシラバス(選択科目)の内容に準じて行う。呼吸器疾患、呼吸機能低下などによる呼吸障害の理学療法に関する知識と技能を習得し、安全で適切に実践することができる高い専門性の人材を育成するため、目的、意義、方法をふまへ高度専門職としての実践貢献の基礎を疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編)として学修する。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

入学
者
選
抜
概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

健康科学研究科

修士課程 理学療法学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
傷害予防の理学療法およびその実態調査	中高齢者の健康増進、転倒予防での調査、そして健常者スポーツでは、愛好家・競技選手(ユース～代表レベル)への実態調査並びに傷害予防への運動動作の研究を行います。	教授 加藤 勝 行
地域リハビリテーション、運動学習	「地域リハビリテーション」では、超高齢社会、小児療育等の領域における地域リハビリテーションのシステムと公共政策についてのテーマを取り上げます。「運動学習」では、脳可塑性を背景とする運動学習についての課題を捉えます。	教授 阪 井 康 友
リハビリテーション工学および生活環境支援に関する評価・分析	1. リハビリテーションの工学的な評価・分析を行います。 2. バリアフリー・ユニバーサルデザインの評価・分析、ハウアダプテーションの評価・分析、共生を目指したまちづくりに関する研究などを通じて、生活環境支援のあり方を探究します。	教授 徳 田 良 英
運動器系の理学療法	運動や様々な疾患で生じる心身の変化を、理学療法やその周辺領域の分野を活用することにより多角的に分析し、問題提起することや課題に対する解決プログラムを検討することを目的とします。	教授 窪 川 徹
運動機能障害診断、理学療法予後予測	臨床データから運動機能の疾病特異型基準値などの検査特性値を抽出し、運動機能障害の有無や程度を同定するための基礎データづくりを行います。また理学療法の適用や予後を予測するための臨床予測式を構築します。	教授 玉 利 光太郎
アスレティックトレーニング	スポーツ現場をテーマとし、外傷・障害調査、外傷・障害予防、救急対応などについて科学的根拠に基づいた調査・研究を行います。	教授 砂 川 憲 彦
人間医工学・健康科学・理学療法学(高齢者、神経筋疾患)	特にパーキンソン病・脊髄小脳変性症の理学療法を中心とした、神経障害系理学療法全般にわたる研究を行います。姿勢・動作の特徴から、問題点を追求し、解決プログラムを検討していきます。	教授 五日市 克 利
健康増進、疾病予防	EBM(科学的根拠に基づく医療)が提唱されて大分経つが、運動をしない人はしないという現状は変わっていない。人々を健康行為へ導くアプローチを運動生理学や行動科学など多視点で模索します。	准教授 景 山 剛
地域在住高齢者の健康支援	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 知 脇 希
医療者教育学・理学療法教育	理学療法士の卒前教育・臨床実習教育・卒後教育に関する調査・分析の研究を行います。研究の手法としては、インタビューによる質的研究および評価尺度・調査票を用いた研究を行います。	准教授 芳 野 純
神経系の理学療法	脳卒中の理学療法、先端機器(AI、ロボット、VRなど)を使用したリハビリテーション、機能的近赤外分光法を使用した脳機能計測など、神経系の理学療法全般の研究を行います。	准教授 飯 田 修 平
スポーツ科学／スポーツバイオメカニクス	スポーツ選手の傷害に関して、傷害調査および動作解析等を通して傷害発生のメカニズム解析や予防のためのトレーニング効果の検証についての研究を行います。	准教授 田 中 直 樹
健康の社会的決定要因に関する社会疫学的研究	人々の健康に影響を及ぼす環境や社会的要因に関する調査分析および介入可能性、介入効果の研究を行います。	准教授 佐 藤 正 司

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
骨格筋形態・機能・代謝評価法の習得と加齢・運動適応の解明	超音波エコーや筋力測定、生化学的検査などにより、骨格筋の形態・機能・代謝を非侵襲的・低侵襲的に評価する手法を学びます。これらの手法を用いて、加齢や運動トレーニングに伴う骨格筋の代謝変化とそのメカニズムを解明し、臨床・スポーツフィールドで実践的に活用できる評価・介入プログラムの構築を目指します。	准教授 日 置 麻 也
スポーツ医学／アスレティックトレーニング学	スポーツ現場でのフィールド調査や動作分析などの研究手法を用いて、スポーツ外傷・障害の予防法、受傷後の競技復帰およびリコンディショニング、ならびにアスリートのパフォーマンス向上に関する研究を行います。	准教授 大 垣 亮
スポーツ医学、疫学、理学療法学	スポーツ外傷・障害の疫学調査、特にコリジョンスポーツにおけるスポーツ関連脳振盪についての疫学調査および安全なスポーツ復帰に関する研究を行います。	准教授 原 田 長

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 救急医療学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	救急医療学特論	地域の救急医療において救護の重要性が高まりつつある。救護の現状を分析し、問題点と改善の方策について議論し、理解を深める。特に救急救命士の指導者としての使命を理解してもらうように努める。
	蘇生学特論	重症外傷や救急疾患にもとづく心肺停止やショックは、医学研究者にとって極めて重要な研究分野である。蘇生法については世界的なガイドラインが策定されているが、さらに効果的な蘇生方法を模索するために蘇生救護訓練を通じて蘇生方法の有効性の比較を中心に研究を行う。同時に、同じテーマに関する内外から発信される研究論文の抄読を通して論文作成の具体的指導を行う。
	外傷学特論	外傷・感染傷病者に対する適切な対応は、救急医療の重要な課題の一つである。重症外傷・感染の疫学や病態の理解を深め、病院前救護から病院内での治療へと連携していくための知識や技能の修得には常に新しい知識の吸収が必要である。欧米から発信される最新の外傷・感染診療事情を学ぶために、英文臨床雑誌の抄読を行う。また、広く生体侵襲学の視点から修士論文作成に直結する様々な知識を学ぶ。
	災害医学特論	自然災害、集団災害の実際を学び、医療関係者として災害現場で適切な行動がとれるように、限られた医療資源で最大限の命を救うという災害医療の目的を理解する。
	応急処置指導学特論	応急処置指導学の発展は、救急医療の質を向上させ、より多くの命を救うことに直結するため、その専門家の育成は今後ますます必要とされている。そのため、心肺蘇生法や応急手当について、最新の知見を理解したうえで、指導者として必要な教育を実践できる能力を身につけることを目標とする。
	感染症学特論	救急医療における感染症は迅速な判断と初期対応が予後を左右する。本授業では、救急領域で遭遇する主要感染症の病態、診断、治療および感染対策の最新知見を理解することを目的とする。受講者は、重症化しやすい感染症(肺炎、敗血症等)の早期認識と初期対応、抗菌薬の適正使用、感染予防策の実践能力を修得し、臨床現場において科学的根拠に基づいた意思決定ができることを到達目標とする。
	小児救急特論	詳細が決まり次第、更新いたします。
	画像診断情報処理特論	詳細が決まり次第、更新いたします。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

修士課程 救急医療学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
救急医療システム学	救急医療の発展の経緯、救急救命士制度の現状と問題点について研究指導を行います。	教授 藤田 尚
外傷・感染と生体侵襲	外傷・感染の疫学、外傷・感染の病態、外傷・感染に対する生体反応などについて研究指導を行います。	教授 斧藤 康雄 藤田 尚
急性中毒学	救急医療に必要な急性中毒について研究指導を行います。	教授 阪本 奈美子
レーザー医療応用	治療に用いるレーザー装置について、治療メカニズムと効果および安全性について研究指導を行います。	教授 大森 繁
解剖学	救急隊員に求められる解剖学的知見について研究指導を行います。	教授 濱田 剛
臨床法医学	救急医療における法医学的事項について学び、調査研究の計画、立案、実行について指導します。	教授 阪本 奈美子
免疫・アレルギー学	免疫・アレルギーの病態と対応について学び、研究指導を行います。	教授 斧永 康雄 川 茂
細胞組織学	細胞内小器官、細胞骨格における機能分子局在について、研究指導を行います。	教授 萩原 治夫
腫瘍学	癌細胞が増殖、転移するメカニズムについて、研究指導を行います。	教授 柳澤 雅弘
詳細が決まり次第、更新いたします。	詳細が決まり次第、更新いたします。	教授 深谷 博子
救急救命、災害医療、 重篤救急看護学、災害看護学	災害医療、災害看護、救急看護について学び、研究指導を行います。	教授 矢島 務 准教授 染谷 泰子

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 全分野共通

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
研究科目	健康科学特別研究	研究テーマの分野への理解を深め、指導教員の指導下で研究活動を行い、得られた研究成果に基づき、博士論文を作成する。また、3ポリシーを踏まえ、博士課程修了後に自らが有する学識を教授するために必要な能力を培う学修を行う。

※共通科目は、全分野で科目名は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って担当教員のもと研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

健康科学研究科

博士課程 臨床心理学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	臨床心理学特講	臨床心理の専門家が関与する3つの主要領域(教育、医療、地域)における研究知識を修得するために、論文を用いたディスカッション中心の学修を行う。前半は3つの主要領域における最近のトピックスとなる論文を読み、次にそれぞれの領域での研究をレビューし課題を見出す。後半は研究法(面接、質問紙、事例)ごとのアプローチの違いを学び、次に近接領域への展開が含まれる研究を取り上げ、研究意義や社会貢献に関して学ぶ。
	臨床心理学面接特講	臨床心理学における様々なアセスメントの方法や面接法・治療法を学修し、これらを来談者がかかえる課題やニーズに対応して柔軟に適用していく方法を学ぶ。臨床活動や、ケースカンファレンスへの参加・スーパービジョンなどにより、来談者の意向や希望を尊重しつつ適切にアセスメントを行い、計画的に介入・支援を行い、その結果を自ら客観的に評価してその後の臨床活動の改善に活かすことの出来る能力を養成する。
	認知・行動心理学特講	認知-行動に関する理論を中心に、学習理論、応用行動分析、情報処理理論などについて体系的に学修する。これらの理論についての基本的な論文や書籍を読み、認知行動学の考え方を身に付けるとともに、どのように臨床心理学に活用されているかを学ぶことを目的とする。
	認知情報システム特講	感覚・知覚、共感、コミュニケーションに関わる人間の基本的な認知過程について学修する。次に心理学の実践において、最近の情報通信技術がどのように活かされているかを大まかなテーマ、領域に沿って学ぶ。最終的に現状の問題と将来の展望について議論する。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

入学
者
選
抜
概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容Q
&
A

健康科学研究科

博士課程 臨床心理学専攻

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
産業メンタルヘルス	産業・労働領域におけるメンタルヘルスに関するアセスメントや面接方法、多職種連携の方法等を幅広く修得し、働く個人と職場環境を広い視野で捉え、メンタルヘルス問題に対する複合的な視点で柔軟に対応していく方法を修得します。そして、これらの産業メンタルヘルスの実践活動について、研究活動を行い、その成果として学会および論文発表を目標とします。	教 授 博士 (人間科学) 馬 場 洋 介
認知行動心理学	認知行動療法や社会生活スキルトレーニング(SST)を中心に、社会認知、学習理論、応用行動分析、情報処理理論などについて体系的に学修する。これらの理論についての基本的な論文や書籍を読み、研究活動を行い、学会発表や論文発表を目標とします。	教 授 医学博士 安 西 信 雄
臨床心理学	臨床心理学と精神分析的理論を基盤に、子どもや若者のメンタルヘルス支援、およびひきこもりに関する研究を指導します。臨床から生まれた問いをもとに、研究と実践を架橋する実践研究を重視します。国内外の文献レビュー、研究計画の立案、データの検討から学会発表や論文執筆に至るまで指導を行います。	教 授 博士 (人文科学) 谷 田 征 子
臨床心理学	臨床心理センターでの臨床活動やケースカンファレンス参加を基に、面接、アセスメント、質問紙等を用いて、観察研究、介入研究、事例研究を行います。研究倫理指針を遵守しながら科学的手法に則った研究活動を行い、成果として学会および論文発表を目標とします。	教 授 博士 (医学) 管 心
臨床心理学、社会心理学	臨床心理学および社会心理学を基盤に、産業メンタルヘルス、キャリア心理学、成人期以降の生涯発達に関する量的・質的研究を指導します。研究方法としては、質問紙調査データを扱う量的研究ならびにインタビューや研究対象者からの語りなどより収集したデータを扱う質的研究の双方からアプローチすることで、科学的手法を用いて多角的に研究を遂行する手続きを学びます。またその前提として、研究テーマならびに研究計画立案、学会発表などを経て論文執筆までを指導します。	教 授 博士 (学術) 瀬戸山 聡 子
臨床心理学	地域・福祉・教育等の領域における心理社会的支援を対象に、コミュニティ支援、支援者支援、多職種・多機関連携やコラボレーション等について、実践研究および調査研究を行います。現場の実践から研究課題を見出し、その成果を学術論文としてまとめることを目指します。	准教授 博士 (人文科学) 杉 浦 貴代子
教育心理学、臨床心理学	教育・学校領域における実践研究や調査研究に関する指導を行います。いじめ防止やコミュニケーションスキルの学習等を目的とした心理教育的プログラムの実践、児童生徒の発達や適応に関する調査研究、学会等での研究成果の発表や学術論文の執筆を目指します。	准教授 博士 (文学) 中 村 玲 子
臨床心理学	臨床心理学および臨床発達心理学の視点から、うつや不安などのメンタルヘルスに関する研究を指導します。特に、認知行動理論、反応スタイル、マインドフルネスの諸技法の効果に関する先行研究を検討し、研究課題を設定します。そして、研究計画の立案、調査・実験、データ分析、論文執筆まで、一連の研究プロセスに取り組みます。その成果として、学会発表および論文発表を目指します。	准教授 博士 (文学) 島 津 直 実

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床心理学一般	臨床心理学を基盤として、ジェンダー・セクシュアリティとメンタルヘルスに関する研究を指導します。研究方法としては、フィールドワークならびにインタビューや観察、ナラティブ・アプローチなどの質的研究法を中心に、研究課題の設定から研究計画の立案、データ収集・分析、論文執筆まで一貫した指導を行います。	准教授 博士 (教育学) 荘 島 幸 子
実験心理学	認知心理学の領域を背景とした言語の心理学、特に視覚的単語認知について学修する。視覚的単語認知とは、視覚的に語を読む際にどのように語彙知識情報を処理しているのか、その認知プロセスを明らかにするものである。この視覚的単語認知に関する認知プロセスについての論文や書籍を基に古典から最新の理論を学修する。そして、その知識を基に言語データベースを活用した厳密な刺激統制法および反応時間データを用いた実験心理学的手法から研究計画の立案を目指す。	准教授 博士 (文学) 楠 瀬 悠

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 鍼灸学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	鍼灸学特講	本講義では、これまでに習得した鍼灸学領域の知識をさらに発展させ、将来独創性の高い基礎研究を遂行できる研究者の育成を目的とする。鍼灸刺激が神経系や免疫系など生体調節機能に対して作用する際の機序について、鍼灸治効理論の先端的知見に焦点をあて理解を深める。
	統合医療学特講	統合医療の臨床的有効性のメカニズムの解明を目指すべく、臨床疫学的研究から試験管内実験、特に病態動物を使った病理学的研究や遺伝子を対象にした試験管内実験などの幅広いアプローチの必要性を紹介する。その過程で、基礎から臨床医学までの研究手技から解析・評価手法に親しむ。具体事例として、糖化と血管内皮細胞機能が、未病発症や経絡概念において果たす役割を明らかにすることで、東西医学が統合できる可能性を紹介する。
	鍼灸臨床演習	本演習では、患者の病態を的確に判断した上でエビデンスに基づく鍼灸治療方針を立案できる臨床知識を修得する。さらに、患者からインフォームドコンセントを取得し、安全な鍼灸治療を行い、患者の信頼を得るという一連のプロセスを遂行できる臨床力の育成を目的とする。また、診療情報をもとに他の医療機関と連携した鍼灸臨床を行える能力を養う。
	中医学特講	中医学は「整体観念」と「弁証論治」を特徴として、独特の理論体系を確立している。本講義は、中医学の古典、中医学を応用した現代医学的研究論文や中医学臨床報告論文等の精読と討論を通じて、中医学の背景にある哲学から現代までの発展について理解を深める。
	疼痛医学特講	本講義では、国内外の痛みに関する情報を基に、「疼痛医学」を取り巻く状況について理解し、根拠に基づいた情報を提供できる知識を養う。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 鍼灸学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生化学	鍼灸の生体に及ぼす作用とその機序について、物質代謝の側面から解析します。鍼灸刺激が物質代謝に及ぼす影響についての研究指導を行います。	教授 医学博士 和 泉 孝 志
神経免疫学	神経免疫関連疾患に対する有効な予防及び治療法の確立を研究の目標として、鍼灸や生物反応修飾物質 (BRM) などの刺激が神経系や免疫系機能に及ぼす影響について研究の指導を行います。〈研究課題〉自律神経系と免疫系機能に対する鍼灸刺激の作用機序の解明粘膜免疫機能に及ぼすBMRの有効性に関する臨床研究など。	教授 博士(医学) 久 島 達 也
基礎鍼灸医学(環境生理学)	ヒトに対する鍼灸などの体性感覚刺激が様々なストレス環境にある生体に及ぼす影響について自律神経機能などの客観的な評価により検証し、その結果を博士論文として作成できるよう個別的に指導を行います。	教授 博士(医学) 久 島 達 也
神経科学	鍼灸刺激による脳機能障害の改善法の確立を目標とし、神経科学分野において自ら独創的な課題を発想し研究活動を遂行していくために必要となる知識及び思考能力を養い、近年、広く利用されている脳機能計測等の技術の研究に活用できる人材への成長を促進する指導を行います。	教授 博士(医学) 久 島 達 也
神経科学	情動や認知機能に関わる前頭前野に対する経穴への鍼灸刺激の効果及びその作用機序の解明を目指し、脳機能イメージング法を用いた研究指導を行います。	教授 博士(医学) 玉 井 秀 明
社会鍼灸学	社会問題の解決に向けた、鍼灸や触れること(体性感覚刺激)を活かした創意工夫及び臨床研究・疫学研究に関する指導を行います。	教授 博士(医学) 宮 崎 彰 吾
鍼灸科学	鍼灸の生体に及ぼす作用とそのメカニズムについて評価・解析を行います。生理学及び神経科学的な実験技法を用いて、鍼灸刺激の末梢受容から中枢・末梢神経系を介した臓器・器官への作用を明らかにします。	准教授 博士(鍼灸学) 今 井 賢 治
鍼灸施術の安全管理、運動器障害と鍼灸施術	衛生管理を中心に安全な鍼灸施術の構築に向けて指導を行います。また、中高齢者を中心とした運動器障害に対する鍼灸施術の効果的な活用法に関しての研究指導を行います。	准教授 博士(スポーツ医学) 恒 松 美香子
東洋医学(鍼灸)	東洋医学、特に経穴の効能・主治症・安全性に関する標準化を目標に、国内外の文献を対象としたシステマティックレビュー、データベース解析、統計解析を用いて新たなエビデンスを創出する研究を指導します。	准教授 博士(医学) 渡 邊 大 祐
ロコモティブシンドローム、鍼灸・運動療法、デジタルヘルス	ロコモティブシンドロームに対する鍼灸・運動・セルフケアの応用、デジタル技術を活用したセルフケア・健康増進に関する研究	准教授 博士(スポーツ医学) 池 宗 佐知子
東洋医学(鍼灸)	痛み(特に筋・筋膜性疼痛)に対する鍼灸の治効機序及び疼痛症状における鍼灸の役割についての研究指導を行います。	准教授 博士(鍼灸学) 皆 川 陽 一

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 柔道整復学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	柔道整復学特講	柔道整復における治療の標準化と治療水準の向上を図り、他の医療分野との関連を理解し、柔道整復術による治療の実践と研究・教育を結びつけながら、研究・教育・臨床の場において必要な能力を修得する。
	柔道整復学特講演習	「柔道整復学特講」で学んだ知識や科学的思考法をもとに、随時プレゼンテーション及びディスカッションの機会を設ける演習形式で授業を行う。臨床技量の向上や新しい治療法の開発、治療システムの構築を目的とした臨床現場における演習や、柔道整復術の効果に関する科学的分析に必要な運動生理学、生体工学、物理学など関連領域に関する演習も行う。
	臨床データ解析特講演習	模擬研究データによる演習をまず行って、一連のプロセスを体得する。次に実際の研究テーマ設定とデータ収集を行い、データ解析を行うことで実践能力を養成する。随時プレゼンテーション及びディスカッションを行いながら、データ解析を通じて柔道整復学分野の研究に関する理解を深める。
	柔道整復スポーツ医学特講	柔道整復術はそのルーツとして柔術の活法があり、柔道整復とスポーツの関連は深い。授業では、スポーツ外傷に対する応急手当の理論と実践、ケガからのスポーツ復帰後に起こる種々の障害に対する適切な対処方法の理論と実践について学修する。
	柔道整復スポーツ医学特講演習	スポーツにおけるケガの応急手当やスポーツ復帰後の痛みに対するケアなど、健康維持に関して柔道整復が果たす役割は大きい。これらの領域・課題については、運動器疾患のみの知識では対応できないため、内科疾患や栄養学、心理学に関する知識も必要になる。生活習慣病全般や、高齢化社会でADL/QOLを高め健康寿命を延ばす身体活動などについて自分で調べ、プレゼンテーション及びディスカッションを通じて知識と理解を深める。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 柔道整復学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
スポーツ健康科学、運動生理学	柔道整復師が開発する、新しい徒手技術や、使用する物理療法機器の検証研究から、柔道整復師が人々の健康増進に寄与するための応用研究を行います。	教授 博士 (健康科学) 樽本修和
臨床柔道整復学	柔道整復の治療における効果検証の研究を行い、手技療法を中心にそのエビデンスを探索し、技術の開発研究を行います。	教授 博士 (健康科学) 樽本修和
柔道整復教育における教育学	柔道整復教育における現行カリキュラムの構造的課題を明確化し、現職教員および実務家への調査(アンケート)等を資料として、教育改善に資する方策を研究する指導を行います。	教授 博士 (医学) 牛込彰彦
脳神経外科学、スポーツ医学	スポーツ外傷、特に神経外傷について、柔道整復学的視点から基礎的・臨床的研究を行います。また、神経再生および褥瘡に関する研究にも取り組み、研究計画の立案、実験・調査方法、データの収集・解析などについて指導します。	教授 博士 (医学) 展広智
柔道整復師による災害医療学、外傷治癒過程の超音波画像評価学、海外における柔道整復術の国際伝統医学(TCIM)における位置づけに関する研究	自然災害における柔道整復師の活動・関係法規、外傷治癒過程の超音波画像評価、海外における柔道整復術のTCIM上の位置づけを主テーマとし、研究デザインから解析、国内外への応用・実践力の育成まで指導します。	教授 博士 (医学) 森倫範
運動器解剖学、臨床機能解剖学	運動器外傷・障害が好発する部位の詳細な「解剖学的構造」について研究調査を行います。先行文献と比較し、「解剖学的構造と臨床との関連性」について考察を行い、論文作成の指導を行います。	教授 博士 (医学) 掛川晃
スポーツ生理学、スポーツ医学、トレーニング科学	柔道整復施術に活かす運動療法をテーマとし、施術後の機能回復の評価と、スポーツ障害の予防に関する研究を考えています。臨床現場で生じた疑問を研究の形に置き換えたうえで、研究計画の作成、測定・調査方法の設定、データの解析法について指導します。	教授 博士 (スポーツ医学) 野上順子
神経機能学関連、教育社会学関連	自然科学として、自律神経系の分野、血流機能、血流の応答性。人文科学として、社会学、心理学。	教授 博士 (健康科学) 玉井清志
ライフサイエンス(高齢者介護)、リハビリテーション科学(高齢者の治療)	柔道整復師の専門性を活かし、高齢者の健康寿命延伸や介護予防をテーマとして、日本と海外の介護福祉制度の比較、自立支援、転倒予防および医療・介護連携に関する研究指導をしています。	教授 博士 (健康科学) 小野澤大輔
スポーツ医学、スポーツ整形外科	少子超高齢社会における柔道整復師の役割	教授 博士 (体育科学) 増島篤
柔道整復学・臨床分野(骨折・脱臼・捻挫・スポーツ外傷等)における基礎的研究	本研究室では、柔道整復学の臨床知とスポーツ科学の計測技術を統合し、外傷・障害の予防と機能回復の科学的根拠を探究することを目的とします。 特に、近赤外線分光法(NIRS)を用いた筋組織の酸素動態・代謝機能の評価により、施術後の回復プロセスや運動負荷に対する生体応答を定量的に捉える研究を推進しています。	准教授 博士 (医学) 木下美聡

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
スポーツ生理学・運動生理学、身体特性評価、スポーツ傷害	スポーツ生理学を基盤として、身体特性や傷害特性に関する研究を行い、柔道整復分野への応用を見据えた研究指導を行います。	博士 准教授 (スポーツ健康学) 清水 貴 司

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程

健康科学専攻

健康栄養学分野

●授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	食材供給学特講	食と栄養の専門家として身に付けなければならない食料の生産と供給の実態を学ぶことを目的とする。我が国は食料の多くを海外に依存していることから、世界的に見た食料生産・供給の安定性や、生産現場から食卓までの食料供給工程の各段階における安全性確保の仕組み、関連の法制度などを深く学ぶとともに、食材汚染に起因する食品事故の発生メカニズムを解析する高度な能力を養う。修士課程で修得した知識・技能をさらに深める。
	栄養生化学特講	管理栄養士には病院や施設における非健康者への栄養管理、各種事業所での肥満や生活習慣病等の予防のための栄養指導、学校や保育所での栄養教育等、種々の重要な役割が課される。これに加えて栄養学の新しい知見を得るための研究活動をも担う。これらの基礎をなすのが栄養生化学の知識と経験である。このため授業をととして知識を修得し、さらに栄養生化学関連分野の研究論文(英文論文を含む)を調べ、理解し、発表する演習を通して実践力を身に付ける。これらを修得することにより、職場でより高度な栄養指導を行ない、また栄養学の新知見を生み出す研究能力を身に付けられる。
	食品機能学特講	近年、食生活や社会環境の変化に伴って増加している生活習慣病の対策として、食品の第三次機能(体調調節機能)への期待が高くなってきている。本特講では、食品及びその成分の第三次機能について理解する。さらに、食品及びその成分による疾病予防や健康保持の可能性に関する研究論文を探索、理解し発表する演習により実践力を培う。これらの修得を通して、栄養マネジメントや研究に活用できる、より高度な能力を身につける。
	臨床栄養学特講	肥満症や生活習慣病などの予防と食事療法、食事療法が重要な役割を持つ疾患の診断・治療の理解、入院(所)患者の栄養管理、Nutrition support team (NST) での中核的役割などに関する高度な専門的知識を修得する。また、演習を行うことにより、実践力を身に付ける。独自に国内外の関連分野の研究論文を調べ、理解し、発表する能力を培う。
	栄養教育学特講	食育などの栄養教育の現場で、行動科学理論に基づいた栄養教育プログラムの開発や実践・評価法が研究されている。本特講では、高度な栄養教育の行動科学理論や方法論、実践的な栄養教育プログラムに関する理解を深める。また、演習を行うことにより、実践力を身に付ける。さらに、国内外の関連分野の研究論文を調べ、理解し、発表する能力を培う。
	食生活学特講	メンタルヘルスと栄養、高齢者のフレイル予防、災害栄養、その他食生活に関して、現在の我が国で課題となっているテーマについての理解を深める。国内外の論文を調べ、理解し、発表する力を培う。さらに、研究結果を現場に活かす方法を身につける。
	健康増進学特講	健康増進学の視点から、食品・栄養及び健康について、食生活全般を通して科学的に考察し、食生活の社会的背景、諸問題、及び今後の課題に至るまで展開し、理解を深める。健全な生活を営むための食生活のあり方について、生活習慣病の予防、Quality of life (QOL) の向上、及び健康寿命の延伸などの視点から考察し、議論する。健康の保持増進や生活の質の向上を目的として生活習慣病などの一次予防の視点を中心に、個人・集団・地域・栄養課題に対する、アセスメント・計画・実施・評価に関する研究を行う能力を養う。さらには、国内外の関連分野の論文を調べ、考察し、議論する能力を身に付け、自分の研究課題の仮説検証及び研究成果を十分に考察する能力を習得する。

●授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 健康栄養学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床栄養学	栄養はあらゆる疾病治療の基礎となるものです。いかなる高度な治療技術も栄養状態が悪ければ十分な効果を得ることはできません。疾病の病態を詳細に把握し、それに即した適切な栄養治療を行うことが極めて重要です。各種栄養治療は国や地域、その文化的背景などで多少ことなることもあります。各種疾病に関する世界の栄養治療の最新の知見を検索し、課題に対して研究することで、栄養治療に関する問題解決能力を養成します。	教 授 博士(医学) 福 島 亮 治
健康管理学	日本人の三大死因の1つのがんは食習慣などの生活習慣が関係しています。がんを予防するための食生活について文献検索し、がん患者の生活の実態を調査し、栄養や食事の面からがんを予防する方法を検討し、健康の維持管理について研究します。また、がん患者の治療中の食事摂取や栄養摂取状況について調査し、治療中のがん患者の健康状態の向上について検討します。	教 授 博士(薬学) 牟 田 真理子
臨床栄養	臨床栄養学	教 授 博士(医学) 尾 花 和 子
応用栄養学	主に、以下の課題に対する研究、及び研究結果を現場で活かす力を養います。 ・うつ病患者の栄養管理、および認知リハビリテーションとしての調理実習 ・高齢者のフレイルと栄養管理 ・災害時の栄養管理 ・ナトカリ比を活用した地域の高血圧予防 ・国際栄養(途上国での栄養支援) ・その他、食生活に関するテーマ	教 授 博 士 (栄養学) 野 口 律 奈
食品科学・おいしさの科学	食品の二次機能である「おいしさ」や「食べる喜び」は、香り、味、食感、色調、外観、組織構造など、ヒトが五感を通して感じる多様な品質特性によって形成される。これらの食品品質を、最新の分析機器や計測技術を用いて科学的・客観的に評価する研究に取り組んでいる。特に、ノンターゲット/VOCオミクスによる香気成分の網羅的解析から、食品固有の風味プロファイルの解明や、おいしさの特徴づける新規成分・品質指標の探索を進めている。さらに、得られた大規模データを多変量解析やAI・機械学習と融合し、製造・加工・保存に伴う品質変化の解明・予測と、新たなおいしさの創出を目指している。これらの研究を通じて、食品品質の向上、食品ロスの低減、健康で豊かな食生活とQOLの向上に貢献する食品科学技術の開発に取り組んでいる。	教 授 博士(農学) 前 田 竜 郎
食品作用学	ハーブやスパイスは、古来より、抗菌作用や防腐作用を目的として経験的に使用されてきました。近年、これら植物およびその成分・抽出物の多くは、抗炎症作用や抗感染作用などを有し、生体防御系にも深く関与していることが科学的に明らかになってきています。ハーブやスパイスが微生物にどのように作用するのか、私たちの生体防御系にどのように影響を与えるのかに関して、伝統的な使用方法との比較も行いつつ、国内外の論文を調べ、考察し、今後の可能性について研究します。	教 授 博士(薬学) 丸 山 奈 保

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生命科学	本研究では、免疫応答の中核を担うヒト白血球抗原 (HLA) の多型に着目し、その機能的意義を分子・細胞レベルで解明することを目的とします。HLA遺伝子は多様性に富み、免疫応答や疾患感受性、移植適合性などに深く関わることから、NGS法や培養細胞実験系を活用し、特定のHLAアリルが免疫機能に与える影響を解析します。本研究を通じて、個別化医療の基盤となる遺伝学の理解を深めるとともに、自己免疫疾患や感染症分野への応用を目指します。	教授 博士(医学) 水谷 晃子
行動毒性学	どのような物質も過剰投与で毒性を示しますが、環境ホルモンでは基準値以下の低用量曝露が脳・神経系へ及ぼす影響が注視されています。本研究は動物実験で、毒性症状に至らない独特の行動パターンの変化に着目します。解析にはAI技術も活用し、新たな評価法の確立を目指す一方、最新文献の精査・考察を通じた新たな可能性の探求も行います。	准教授 博士(工学) 藤本 哲也
健康増進学	生活習慣病の予防、Quality of life (QOL) の向上、及び健康寿命の延伸などについて、人々の健康に関する正しい情報を入手し理解し活用する能力であるヘルスリテラシーや市民、患者、医療従事者を含めたヘルスコミュニケーションの観点から考察し、研究を行います。健康の保持増進や生活の質の向上を目的として疾病予防の予防行動並びに慢性疾患患者の自己管理の視点も含めて、どのような課題や関連要因があるのかを明らかにして、対処行動や対策が必要になるのかという課題解決に向けた研究を行う能力を養います。	准教授 博士(医学) 上野 治香
栄養管理学	人体の栄養状態を適正に保つことは、疾病の予防、治癒、重症化予防、介護予防に貢献しますが、傷病者、要支援・要介護者は栄養状態を良好に保つことが困難ことがあります。そこで、その阻害要因を明らかにし、人々の健康とQOL向上に寄与できる栄養管理法や食環境整備の方法を研究します。	准教授 博士(保健学) 高橋 寛子
分子生理学	栄養状態や運動、ストレス、疾病に伴って、生体内では遺伝子、タンパク質、代謝物が変化します。特に注目しているのが、揮発性有機化合物です。これらの化合物の中には、体内のどこで、どのような過程を経て生じ、何を反映しているのかが明らかになっていないものが数多くあります。こうした生体応答の仕組みを明らかにするため、ヒトや動物から得られた血液や臓器などの生体試料と培養細胞を対象に、網羅的遺伝子発現解析 (RNA-seq)、質量分析によるノンターゲットミックス解析を行います。栄養、運動、炎症などによって変化する分子を探索し、見いだした分子の働きを細胞実験で検証するとともに、揮発性有機化合物の由来や生理的意義の解明に取り組んでいます。また、機能未知のオーファン受容体が関わる新たな情報伝達系を探索しています。ヒトを対象とした研究では、アスリートの急速減量に伴う生体応答メカニズムの解明を進めています。これまで見過ごされてきた生体応答を分子レベルで捉え、新たな生体指標や健康・疾病評価につながる研究領域を切り拓くことを目指します。	准教授 博士(医学) 長谷川 和哉

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 言語聴覚学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	言語聴覚学特講	言語聴覚障害の基本として、健常者の言語・非言語コミュニケーションの生涯発達について研究する。言語・コミュニケーション過程には様々な要因が関与しており、視線、表情などの非言語的要因や、話しことばの受容に関連する聴覚機能や注意機能、表出に関連する構音、語用論の問題などの言語的要因などが関わっている。それらの要因について考察し、さらに乳幼児期から老年期にいたる言語・コミュニケーションの発達とそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化を、生涯発達の視点から学び、理論的・実践的研究を行う基礎力をつける。
	言語聴覚学特講演習	言語・非言語コミュニケーションに関与している諸要因、さらに乳幼児期から老年期にいたる言語・コミュニケーションの発達とそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化に関する基礎・臨床研究について理論的・実践的研究を行う。
	言語聴覚障害学特講	言語・コミュニケーションが阻害される要因として、知的・認知的発達、その基盤となる運動機能の発達、対人社会性の発達、聴覚機能の発達、摂食・嚥下機能の発達、構音発達など発達上の問題と、言語・コミュニケーション能力獲得後に障害を受けた場合の後天性障害がある。ここでは先天的または後天的諸要因、及び個人を取り巻く環境要因、双方によってもたらされる言語・コミュニケーションの多様な諸問題についての評価・分析法について研究する。当事者が日常で抱える問題性も含め、個人を包括的に捉える方法論について理論的・実証的研究を行う。
	言語聴覚障害学特講演習	先天的、または後天的諸要因と個人を取り巻く環境要因双方によってもたらされる言語・コミュニケーションの諸問題を評価・分析するための様々な方法論に関する基礎・臨床研究を行う。また、具体的な臨床研究データをもとに、個人を包括的に捉える方法論について理論的・実証的研究を行う。
	言語聴覚療法学特講	言語・コミュニケーション障害をもつ対象者に対する機能訓練の技法と訓練効果の検証法、及び障害特性に応じたAACの適用等について理論的・実証的研究を行う。また、生活支援、家族支援、教育支援、就労支援の視点から、障がいをもった個人及び彼らを取り巻く人々への臨床実践のあり方や、地域社会への働きかけの方法について、理論的・実証的研究を行う。
	言語聴覚療法学特講演習	言語・コミュニケーション障害、その基礎となる認知機能、高次脳機能、発声・発語機能、聴覚を中心とした感覚機能の障害に対する訓練方法と訓練効果の検証法等に関する基礎・臨床研究を行う。また、リハビリテーション研究の具体例を通して障がいをもった個人及び彼らを取り巻く人々への臨床実践のあり方や、地域社会への働きかけの方法論について理論的・実証的研究を行う。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 言語聴覚学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
聴覚障がい児・者のコミュニケーションとQOL、臨床支援に関する分野	聴覚障害者(あるいは盲ろう者)のwell-being(健康で幸福な生活)に資するための支援について、関与観察とエピソード記述の手法を用いて吟味し、質的な研究を行います。	教授 博士(人間・環境学) 黒田生子
失語症・高次脳機能障害の評価・訓練・指導に関する分野	失語症・高次脳機能障害に関する基礎的、臨床的な研究について対応します。特に失語症の会話や談話の分析方法などについて指導を行います。	教授 博士(保健医療学) 相馬有里
認知神経心理学	後天性・先天性脳疾患により生じる認知機能障害の脳内メカニズムに関して、臨床症例に基づいた研究の方法を指導します。	教授 博士(医学) 永井知代子
臨床心理学	言語聴覚療法学における臨床心理学的アプローチについて指導します。	教授 博士(人文科学) 鵜木恵子
実験心理学、認知科学	聴覚障害の方の感覚・知覚に関する研究について指導します。	教授 博士(心理学) 川島尊之
小児領域の発声発語障害の評価・訓練・指導に関する分野	小児の発声発語障害の中で、特に機能性、器質性構音障害に関する基礎的、臨床的な研究について取り上げます。音声の聴覚判定および機器を用いた鼻咽腔閉鎖機能の評価に関する基礎的研究についても指導を行います。	准教授 博士(医学) 佐藤亜紀子
聴覚障害児の言語発達の評価に関する分野	幼児期から学童期の聴覚障害児の言語発達、特に状況文脈の理解など語用論的な側面に関する評価について指導を行います。	准教授 博士(リハビリテーション科学) 野原信

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 作業療法学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	身体障害作業療法学特講	本特講では、ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) モデルを軸に、身体障害における心身機能・器質が活動及び参加にどのような影響を及ぼすか、その相互作用について、主にリハビリテーション医学の視点から探索し、考察を深める。
	身体障害作業療法学特講演習	本演習では、特講を踏まえ、身体障害リハビリテーション医学に関する最新の国内外文献を検索し、各自の研究テーマに関する文献を精読する。精読した文献についてさらに討論を深める。
	作業活動分析学特講	本特講では、生活上の作業を遂行をする上で必要となる心身機能、特に上肢機能と姿勢などに焦点を当てながら、諸条件と作業遂行の関係を分析し、より効率的な作業環境および生活環境を探索し提案に結びつける。
	作業活動分析学特講演習	本演習では、特講を踏まえ、生活上の作業を遂行をする上で必要となる心身機能上肢機能と作業遂行に関する国内外の知見を検索し、各自の研究テーマに関する文献を精読する。精読した文献についてさらに知見を得るために用いられた各種分析方法を中心に討論を深める。加えて、国内外の先行研究にもとづき、各自のテーマに関連した仮説を立て、各種測定機器を用いた小規模な測定計画の作成、測定の実施、分析し検討を行う。
	生活障害作業療法学特講	本特講では、身体障害をはじめ、精神障害、知的障害、および発達障害まで幅広い対象者の教育や就労、地域生活上の障害を明らかにし、社会参加を阻害する要因や課題について包括的な評価や支援の手法を探索し、考察を深める。
	生活障害作業療法学特講演習	本演習では、特講を踏まえ、生活障害に関する全ての領域について、分野ごとの最新の国内外文献を検索し概観する。さらに各自の研究テーマに関連した領域について国内外の関連する先行研究を精読し、作業療法における対象者の生活障害の評価および介入、さらに生活障害に関連する作業療法の研究方法を検討し、過去の研究動向を把握し、考察を深める。また、対象者の生活支援当事者や専門家からも情報収集を行い、自らの研究テーマを鑑み討論を行うことで考察を深める。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 作業療法学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
障がい者等の動作や活動時の主として身体機能の分析と、介入分析に基づく生活支援機器などを用いた環境調整による作業療法	障がい者・高齢者の作業遂行能力障害とその予防について、主として身体機能面の運動学・生体力学的手法による分析と機能改善、障害に応じた生活支援機器や住環境などの生活環境調整による作業療法について研究指導を行います。	教授 博士 (作業療法学) 根本 悟 子
神経および筋骨格系障害者の運動機能	神経および筋骨格系障害者の上肢運動機能について、とくに骨系疾患や高齢者の身体機能に焦点を当てて、的確な評価と訓練法考案の基盤となる研究指導を行います。	教授 博士(医学) 江 面 陽 一
高齢者のWell-being、超高齢社会における地域リハビリテーションに関わる作業療法	障がいの有無にかかわらず高齢者を含むすべての地域に暮らす人に関わるリハビリテーション、心身の健康とQOLに必要な介入や環境調整、家族支援、日常生活・生活関連活動の維持、余暇社会活動への参加・地域貢献や自己実現の機会の提供、さらに地域コミュニティの仕組みづくり等に関わる作業療法の国内外の現状を概観し、具体的な支援法・効果検証の実践について、研究指導を行います。	教授 博士 (老年学) 菊 池 和 美
障がい者等の感覚と外部環境、認知機能に対する他覚的調査・分析・介入について	ADLやIADLの維持・向上に関係する外部環境や五感の状態、障害のプロフィールを踏まえた作業療法プログラムの設計や生活上の注意・支援を分析し、ICFやQOLを意識しながら介入できるように指導を行います。特に、神経変性疾患領域では、記憶、感情、情動と深く関係する嗅覚障害、パーソン・センタード・ケア的な視点、五感のバランスの状態と意義などから考えられるよう指導します。	教授 博士 (作業療法学) 関 一 彦
生体医工学関連	リハビリテーションの一環として、褥瘡の予防・早期発見に向けた姿勢・動作評価等の褥瘡の「予防」「リスク評価」「早期発見」「姿勢・動作評価」について研究指導を行います。	教授 博士(医学) 喬 炎
精神障がいリハビリテーション関連	精神障がいのある人のスポーツについて、その意義や実施・普及のあり方など、幅広い視点から研究指導を行います。またメンタルヘルス領域における早期予防教育についても研究指導を行います。	教授 博士 (社会福祉学) 鎗 田 英 樹
精神科リハビリテーション・精神科作業療法の評価と介入について	主に精神科リハビリテーションにおける認知行動療法の有用性を統合失調症やうつ、社交不安症の患者さんへの支援や介入に関する効果等について研究指導を行います。また、精神科訪問看護などにおける作業療法士の支援や、モルックを活動として取り入れた地域在住高齢者の健康増進の研究指導も行います。	准教授 博士(医学) 勝 嶋 雅 之

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 理学療法学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	理学療法評価・分析学特講	人間の各種の障害や高齢者を研究対象とした臨床研究であり、人間の運動や生活動作(活動)とその異常や障害に焦点をあて、その障害を臨床的に、各種測定機器を利用して測定し、その特性を解析、分析を学修する。また、リハビリテーション医療、介護予防、福祉機器、義肢装具、介護保険、障害者自立支援法などの視点からも障害を解析、分析法を学修する。また、障がい者・高齢者に必要な生活環境改善について、建築学、ユニバーサルデザインの視点から解析法を学修し、具体的な研究テーマを設定し、研究レポートを完成させる。
	理学療法評価・分析学特講演習	理学療法評価・分析学特論・理学療法評価・分析学特講を踏まえて、人間の運動や生活動作(活動)とその異常や障害に焦点をあて、その障害を臨床的に、各種測定機器を利用して測定し、その特性について解析、分析を実践する。また、リハビリテーション医療、介護予防、福祉機器、義肢装具、介護保険、障害者自立支援法、生活環境、建築学、ユニバーサルデザインの視点から障害を解析、分析法について演習し、具体的な研究テーマを設定し、研究レポートを完成させる。
	理学療法治療学特講	脳血管障害などの中枢神経系運動障害、姿勢調節異常、コミュニケーション障害、半側視空間無視などの高次脳機能障害を対象にして、評価法並び機能回復の方法、技術について講義する。また、健常者並び障がい者・高齢者の健康増進に焦点をあてて、適切な運動処方の方の在り方、運動負荷が生体に与える生理的影響について講義する。また、各種のスポーツ障害に対する評価、解析、リハビリテーションプログラム(運動療法)について学修する。具体的な研究テーマを設定し、研究レポートを完成させる。
	理学療法治療学特講演習	理学療法治療学特論・特講を踏まえて、脳血管障害などの中枢神経系運動障害や高次脳機能障害を対象にして、評価法並び機能回復の方法、技術について研究開発する。また、健常者並び障がい者・高齢者の健康増進に焦点をあてて、適切な運動処方の方の在り方、運動負荷が生体に与える生理的影響について測定し、解析する。また、各種のスポーツ障害に対する評価、解析、リハビリテーションプログラム(運動療法)について実践し、データ解析を行う。関心領域から具体的な研究テーマを設定し、研究レポートを完成させる。
	統合リハビリテーション学特講	理学療法学を基盤とした介護予防及び地域リハビリテーションの観点から、地域で生活する障がい者、小児障がい者、神経難病そして高齢者の特徴とニーズを知り、地域を基盤として活動する理学療法士による専門的支援の知識・技術的シーズについて学修する。各種制度についてディベート方式で討議を進行させて、地域リハビリテーションの視点で地域の社会保障制度の立案、実施に関する研究を行うとともに研究テーマを設定して、研究レポートを完成させる。
	統合リハビリテーション学特講演習	統合リハビリテーション学特論・特講を踏まえて、理学療法学を基盤とした介護予防および地域リハビリテーションの観点から、地域リハビリテーションの現地視察・実態調査から客観的な課題を把握する能力を高め、模擬患者のケアマネジメントプランの演習形式で確認し、課題事業についての事業計画書、許認可申請書等の作成を通して、将来の事業責任者または地域リハビリテーションのリーダーとしての資質を高める。地域リハビリテーションの施設にて実践実習を行う。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 理学療法学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
運動動作学と理学療法	保健医療からの観点で、ヒトの運動動作からのデータ分析や実践的活動から診た運動療法の必要性をパフォーマンス向上を目的に研究指導を行います。	教授 博士 (保健医療学) 加藤 勝行
地域リハビリテーション、運動学習	「地域リハビリテーション」では、超高齢社会、小児療育等の領域における地域リハビリテーションのシステムと公共政策についてのテーマを取り上げます。 「運動学習」では、脳可塑性を背景とする運動学習についての課題を捉えます。	教授 博士(工学) 阪井 康友
リハビリテーション工学	ヒトの運動や所作を環境との対応関係の視点で工学的な研究を行います。リハビリテーション工学の中でも特に、運動力学、身体運動学、建築人間工学、障害者・高齢者の生活環境などについて研究します。	教授 博士(工学) 徳田 良英
運動器系の理学療法	運動や様々な疾患で生じる心身の変化を、理学療法やその周辺領域の分野を活用することにより多角的に分析し、問題提起することや課題に対する解決プログラムを検討することを目的とします。	教授 博士 (障害科学) 窪川 徹
運動機能障害診断、理学療法予後予測	臨床データから運動機能の疾病特異型基準値などの検査特性値を抽出し、運動機能障害の有無や程度を同定するための基礎データづくりを行います。また理学療法の適用や予後を予測するための臨床予測式を構築します。	教授 Doctor of PHILOSOPHY 玉利 光太郎
アスレティックトレーニング	スポーツ現場をテーマとし、外傷・障害調査、外傷・障害予防、救急対応などについて科学的根拠に基づいた調査・研究を行います。	教授 博士 (スポーツ科学) 砂川 憲彦
地域在住高齢者の健康支援	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 博士 (社会科学) 知脇 希
医療者教育学・理学療法教育	理学療法士の卒前教育・臨床実習教育・卒後教育に関する調査分析および教育評価・教育方法・カリキュラム開発などの研究を行います。研究の手法としては、インタビューによる質的研究および評価尺度・調査票を用いた研究を行います。	准教授 博士 (保健学) 芳野 純
神経系の理学療法	脳卒中の理学療法、先端機器 (AI、ロボット、VRなど) を使用したリハビリテーション、機能的近赤外分光法を使用した脳機能計測など、神経系の理学療法全般の研究を行います。	准教授 博士 (健康科学) 飯田 修平
スポーツ科学／スポーツバイオメカニクス	スポーツ選手の傷害に関して、傷害調査および動作解析等を通して傷害発生のメカニズム解析や予防のためのトレーニング効果の検証についての研究を行います。	准教授 博士 (健康科学) 田中 直樹
健康の社会的決定要因に関する社会疫学的研究	人々の健康に影響を及ぼす環境や社会的要因に関する調査分析および介入可能性、介入効果の研究を行います。	准教授 博士(医学) 佐藤 正司

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

入学
者選
抜概
要出
願
手
続合
格
発
表
・
入
学
手
続試
験
場
の
案
内研
究
指
導
内
容

Q

&

A

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
骨格筋形態・機能・代謝評価法の習得と加齢・運動適応の解明	超音波エコーや筋力測定、生化学的検査などにより、骨格筋の形態・機能・代謝を非侵襲的・低侵襲的に評価する手法を学びます。これらの手法を用いて、加齢や運動トレーニングに伴う骨格筋の代謝変化とそのメカニズムを解明し、臨床・スポーツフィールドで実践的に活用できる評価・介入プログラムの構築を目指します。	准教授 博士(医学) 日 置 麻 也
スポーツ医学／アスレティックトレーニング学	スポーツ現場でのフィールド調査や動作分析などの研究手法を用いて、スポーツ外傷・障害の予防法、受傷後の競技復帰およびリコンディショニング、ならびにアスリートのパフォーマンス向上に関する研究を行います。	准教授 博 士 (スポーツ医学) 大 垣 亮

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 救急医療学分野

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	救急医療学特講	地域の救急医療において救護活動の重要性が高まりつつあり、救急救命士の指導者となり得る人材が求められている。救護の現状と課題を分析し、救護における学問体系を構築するための議論を通じて、救急救命士の指導者としての使命と役割を理解する。
	蘇生学特講	重症外傷や救急疾患に基づく心肺停止やショックは、医学研究者のみならず救護の担い手である救急救命士にとって、極めて重要な研究分野である。生命危機の迫った傷病者を想定した救護訓練による蘇生方法の効果比較と施行者自身が晒されるストレス反応を中心に研究を行う。同時に、内外から発信される研究論文の抄読を通して論文作成の具体的指導を行う。
	外傷学特講	外傷・感染傷病者に対する適切な対応は、救急医療の重要な課題の一つである。重症外傷・感染の疫学や病態の理解を深め、病院前救護から院内での治療へと連携していくための知識や技能の習得には常に新しい知識の吸収が必要である。欧米から発信される最新の外傷・感染診療事情を学ぶために、英文臨床雑誌の抄読を行う。また、広く生体侵襲学の視点から博士論文作成に直結する様々な知識を学ぶ。
	災害医学特講	災害現場においては、医療関係者の一員として医師、看護師、薬剤師などのほか警察官、自衛隊員、行政職員、などと適切な情報交換を行うことが大切である。救急救命士が災害現場で適切な働きができるよう災害医学について理解を深め、あわせて災害医療における種々の問題点について考察する能力を身に付ける。
	中毒学特講	人々の生活を取り巻く環境に中毒起因物質が多く存在している。また化学物質によるテロリズムはいつどこで起こるかわからない。そこで本講では、中毒学の概要、自然界に存在する中毒起因物質、日々の生活における中毒、化学物質によるテロリズムについて理解する。
	感染症学特講	救急領域における感染症診療の高度実践力を養成することを目的とし、重症感染症の病態生理、迅速診断技術、個別化治療戦略および感染制御の統合的理解を深める。受講者は、重症・難治性感染症である敗血症性ショックや多剤耐性菌感染症、感染予防対策に対して、最新エビデンスとガイドラインを踏まえた高度な臨床判断ができる能力を修得する。また、輸入感染症や集団感染が生じる災害現場やパンデミック下において多職種連携を通じた感染対策のリーダーシップを発揮できるレベルを到達目標とする。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

健康科学研究科

博士課程 健康科学専攻 救急医療学分野

●教育研究および担当教員

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
救急医療システム学	我が国と諸外国の救急医療システムの違いを英語の文献で学び、救急救命士制度の現状と課題、指導者教育のあり方などについての研究指導を行います。	教授 博士(医学) 藤 田 尚
外傷・感染と生体侵襲	外傷・感染の病態、外傷傷病者の救護などについて最新の文献を基に深く学ぶとともに研究指導を行います。	教授 博士(医学) 斧 康 雄 博士(医学) 藤 田 尚
急性中毒学	救急医療に必要な急性中毒の病態や対応について学ぶとともに研究指導を行います。	教授 博士(医学) 阪 本 奈美子
臨床法医学	救急医療における法医学的事項につき調査・研究を行います。 ①外傷形態と死亡原因 ②死亡原因と死後画像 ③死後造影CTと心肺蘇生法など	教授 博士(医学) 阪 本 奈美子
免疫・アレルギー学	救急医療に必要な免疫・アレルギーの病態と対応について学び、研究指導を行います。	教授 博士(医学) 斧 康 雄 博士(医学) 永 川 茂
細胞組織学	細胞内小器官、細胞骨格における機能分子局在について、最新の知見を基に研究指導を行います。	教授 博士(医学) 萩 原 治 夫
レーザー医療応用	治療に用いるレーザー装置について、治療メカニズムと効果および安全性について研究指導を行います。	教授 博士(医学) 大 森 繁
腫瘍学	癌細胞が増殖、転移するメカニズムについて文献を基に学び、研究指導を行います。	教授 博士(医学) 柳 澤 雅 弘
解剖学	救急隊員に求められる解剖学的知見について研究指導を行います。	教授 博士(理学) 濱 田 剛

●担当教員、研究指導内容等は変更になる場合があります。

Q & A

帝京平成大学大学院 健康科学研究科【修士課程・博士課程】

出願資格について

Q：専門学校を卒業して、理学療法士として勤務して5年になりますが、大学院【修士課程】に入学できますか？

A：2027年4月1日現在で満22歳以上であり、本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められれば、出願できます。

そのうえで、入学者選抜に合格すれば入学できます。

※入学資格審査は、専攻により申請条件が異なりますので、詳しくはP.4をご確認ください。

Q：特別に国家資格を持っていませんが、大学院に入学して各専門分野の知識や技術を身につけたいと思っています。入学は可能でしょうか？

A：出願資格を満たしていれば、出願可能です。そのうえで、入学者選抜に合格すれば入学できます。

授業料後払い制度について

Q：大学院修士段階における「授業料後払い制度」は利用できますか？

A：利用できます。詳細は本学ホームページをご確認ください。

単位認定について

Q：大学院中退ですが、以前通学していた大学院での修得単位は認定されますか？

A：修得内容を確認のうえ、認定の可否を判断します。

Q：科目等履修生で、既に修得した単位は認定されますか？

A：修得内容を確認のうえ、認定の可否を判断します。

研究テーマ・担当教員について

Q：研究テーマ・担当教員はどのように決めるのですか？

A：出願前に担当希望教員と事前面談を行います。正式な担当教員は入学者選抜試験合格後に決定し、入学後に担当教員と協議して研究テーマを決めます。

研究環境について

Q：研究室、実習室等の研究環境について教えてください。

A：「帝京平成大学臨床心理センター」や「帝京池袋鍼灸臨床センター」をはじめ、帝京平成大学附置研究機関として「東洋医学研究所」が設置されています。

Q：図書館ではどのようなサービスを提供していますか？ 図書館の開館曜日・時間帯はどのようになっていますか？

A：図書館では、図書の貸出・予約・購入希望申込受付・文献複写・情報端末の利用・コピー等のサービスを提供しています。図書の貸出冊数は5冊まで、期間は28日間です（長期休暇時は長期貸出を行います）。開館時間は、平日8:45～21:30、土曜日8:45～17:00です（長期休暇時は時間変更の場合があります）。日曜・祝祭日・年末年始などは休館です。

出願書類の受付について

Q：出願書類の窓口受付はしていますか？

A：受験料の支払いを済ませてから、出願書類を入試課へ出願期間内に持参してください。

受付時間 平日9:00～16:00 土曜日9:00～12:00

日曜、祝日の事務取扱いはいたしません。

また、9/26、2/13は入館不可となるためご注意ください。

池袋キャンパス MiNoRiセントラル 入試課以外では、窓口受付はしていません。

入学選考関係について

Q：出願書類に不備があった場合は、どうなりますか？

A：出願書類に不備がある場合は受理できませんので、ご注意ください。

Q：合否判定の基準はありますか？

A：筆記試験・面接・書類審査で総合的に判定します。

Q：合格発表はどのような方法で行われますか？

A：合格発表日（13:00～）から入学手続締切日（～23:59）まで、Webによる合否照会を実施します。

なお、合否照会の方法については、P.15をご覧ください。

その他

Q：通学にあたり、学生向けの駐輪場・駐車場はありますか？

A：MiNoRiセントラルには、駐輪場はありますが、駐車場はありません。

MiNoRiラボには、駐輪場・駐車場ともにありません。MiNoRiセントラルの駐輪場を使用する場合は、入学後に申請が必要です。

Q：就職活動の支援を受けられますか？

A：就職支援室にて、履歴書添削や面接練習をはじめ、個別相談などの支援を受けることができます。

また、求人検索などができる本学独自の就職支援サイト「帝京平成大学キャリアナビ」の利用が可能です。

MEMO



TEIKYO

帝京平成大学 入試課

HP <https://www.thu.ac.jp>

お問い合わせ

入試相談 ☎ 0120-918-392

TEL.03-5843-3200 FAX.03-5843-3210

池袋キャンパス 〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4

中野キャンパス 〒164-8530 東京都中野区中野4-21-2

千葉キャンパス^{※1} 〒290-0193 千葉県市原市うるいど南4-1
(2026年度)

千葉キャンパス^{※2} 〒290-0192 千葉県市原市ちはら台西6-19
(2027年度以降)

※1 2027年4月より「千葉スポーツキャンパス」へ名称変更予定です。

※2 2026年度以前の名称は「ちはら台キャンパス」です。